

東海生研 ～ メールマガジン 第148号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成29年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
 - ☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会総会および第1回セミナー（6月22日）
 - ☆平成29年度の東海生研・行事予定
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
 - ☆一般社団法人 食品品質プロフェッショナルズ(QPFS)主催セミナー（4月22日）
～食物アレルギーセミナー@名古屋～
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
 - ☆農林水産省等のイベント情報のURL
- 4. 競争的研究資金について
 - ☆平成29年度マツノザイセンチュウ抵抗性品種開発技術高度化事業（林野庁）
 - ☆平成29年度地域イノベーション・エコシステム形成プログラム(文部科学省)
 - ☆平成29年度地域産学バリュープログラム (JST)
 - ☆研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)
平成29年度 ステージⅡ：シーズ育成タイプ
 - ☆研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)
平成29年度 ステージⅢ：NexTEP-B タイプ
 - ☆研究成果展開事業 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (JST)
 - ☆国際科学技術共同研究推進事業（戦略的国際共同研究プログラム） (JST)
 - ☆民間の競争的研究資金

◆ 1 ◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業

☆平成29年度NPO法人東海地域生物系先端技術研究会総会および第1回セミナー

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会通常総会と第1回セミナーを下記の通り開催します。

【開催日時】 平成29年6月22日（木） 14：30～15：30 総会
15：45～16：45 第1回セミナー

【開催場所】 ウィンクあいち 13階 1302号室

【第1回セミナー】

講演： 「地域農業の将来を考える視点」

愛知県農業振興基金理事長（NPO法人東海生研副理事長） 可知祐一郎氏

【情報交流会】 ウィンクあいち13階 1306号室 会費制：3000円

☆平成29年度の東海生研・行事予定

○第2回セミナー： 10月上旬

○アグリビジネス創出フェア2017 in 東海： 11月7日（火）、8日（水）
名古屋大学野依記念学术交流館

○第3回セミナー： 11月20～24日（予定）

○競争的資金説明会： 1月中旬

○情報誌「バイオテック東海」： 12月発行予定

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆一般社団法人 食品品質プロフェッショナルズ(QPFS)主催
～食物アレルギーセミナー@名古屋～

一般社団法人食品品質プロフェッショナルズは、下記の要領でアレルギーとアレルギー
ンマネジメントについてのセミナーを実施します。

【開催日時】 2017年4月22日（土）13：15～17：00（開場13：00）

【開催場所】 愛知県産業労働センター（ウィンクあいち）1210会議室(12階10号室)
名古屋市中村区名駅4丁目4-38 TEL：052-571-6131
アクセスはHPの<http://www.winc-aichi.jp/access/>をご参照ください。

【プログラム】

時間	アジェンダ	講師
13:15 - 14:15	食物アレルギー管理 食品安全衛生の観点から	東京家政大学 森田幸雄氏
14:15 - 15:15	食物アレルギー機序と予防研究 免疫とアレルギー 予防研究（食添、マウス実験等）	岐阜薬科大学 山下弘高氏
15:15 - 15:30	休憩	
15:30 - 16:50	食物アレルギーコントロール アレルギークリーニング アレルギー分析法	(株) 森永生科学研究所 土井啓利氏
16:50 - 17:00	質疑応答	QPFS
17:15 - 19:00	交流懇親会	

なお、講師・演題は都合により変更することがあります。

【参加費】

セミナー参加費3000円、 交流懇親会費 5000円

【参加申し込み】

一般社団法人食品品質プロフェッショナルズ・ホームページ<http://qpfs.jp/> の
セミナー開催情報 をご参照の上、4月20日（木曜日）までに必要事項（氏名、
所属、当日連絡電話、交流会参加の有無）を記入し qpfs-nagoya@qpfs.jp
名古屋事務局水野宛てにお申し込み下さい。

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産省農林水産技術会議事務局では、農林水産関係の国立研究開発法人等の開催するイベントを紹介しています。イベントカレンダーのURLは下記の通りです。

<http://sto.affrc.go.jp/event/calender>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成29年度競争的研究資金等について

☆平成29年度マツノザイセンチュウ抵抗性品種開発技術高度化事業 (林野庁)

http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/itaku/170302_1.html

分野等：

1. マツノザイセンチュウ抵抗性の効率的な判定技術の開発
2. より強い抵抗性を有する品種の開発

公募期間：平成29年3月2日～4月24日

☆平成29年度地域イノベーション・エコシステム形成プログラム (文部科学省)

http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/chiiki/program/1381687.htm

分野等：コア技術等を有する地域において、コア技術等の性質等を踏まえて、事業化を支える人材及びそのチームを設置し、様々な外部環境・内部環境分析を踏まえて事業化戦略・計画を策定し、関係者が一丸となって各プロジェクトを遂行し、当該プロジェクトの出口としてマイルストーンに基づく次のフェーズの資金（又は売上）の獲得等を目指す取組を支援する。

公募期間：平成29年1月31日～4月14日

☆平成29年度地域産学バリュープログラム (JST)

<http://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

分野等：昨年度までのマッチングプランナー・プログラムが地域産学バリュープログラムに変わりました。本プログラムでは、地域における企業の競争力強化に資するべく、法人格を有する企業等の開発ニーズ（以下、「企業ニーズ」という）の解決等のため、大学等を対象に、大学等が保有する研究成果、知的財産（以下、「大学シーズ」という）がその解決に資するかどうかを確認するための試験研究開発費を支援する。支援にあたっては、大学等に在籍するコーディネータ等、事業化を目指す企業担当者や、国立研究開発法人科学技術振興機構（以下、「JST」という）が配置するマッチングプランナーなどの橋渡し人材が把握した企業ニーズと、対象となる大学シーズがマッチングさ

れていることが前提です。産学共同研究開発の初期段階を支援することで、企業ニーズの解決に資するコア技術を創出し事業化を目指します。さらに、本格的な共同研究開発に繋げることにより将来的には社会的・経済的な波及効果が創出されることを狙いとする。

公募期間：平成29年3月29日（水）～5月31日（水）正午

.....
☆研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP） (JST)

平成29年度 ステージⅡ：シーズ育成タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29stage2-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づく顕在化したシーズの可能性検証及び実用性検証のため、産学共同での本格的な研究開発を実施する。

公募期間：平成29年3月1日～5月11日

.....
☆研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP） (JST)

平成29年度 ステージⅢ：NexTEP-B タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-b-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づく実用性が検証されているシーズのうち、研究開発型企業の比較的小さな規模の実用化開発を支援する。

公募期間：平成29年3月1日～6月9日

.....
☆研究成果展開事業 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）(JST)

<http://www.jst.go.jp/opera/koubo.html>

分野等：産業界との協力の下、大学等が知的資産を総動員し、新たな基幹産業の育成に向けた「技術・システム革新シナリオ」の作成と、それに基づく非競争領域としての産学共同研究を通して、基礎研究や人材育成における産学パートナーシップを拡大し、我が国のオープンイノベーションを加速する。

公募期間：平成29年3月3日～5月9日

.....
☆国際科学技術共同研究推進事業（戦略的国際共同研究プログラム） (JST)

平成29年度 日本—中国共同研究課題の募集

http://www.jst.go.jp/inter/sicorp/announce_ch_NSFC2nd.2017.html

分野等：植物—微生物共生系、微生物叢の機能と制御に着目した基盤技術の創出

公募期間：平成29年3月13日～5月19日

.....
((民間の競争的研究資金))

当研究会の下記 URL のホームページ「公募情報」をご覧ください。

公募情報（17032）

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/public/public-1059/attachment-0-6>

.....
編集後記

4月に入り新年度が始まりましたが、本年度も産学連携支援事業を中心に、研究シーズの事業化への橋渡し、現場ニーズの解決のための産学間のマッチング、研究成果等の情報発信等を通じて、地域活性化に貢献すべく活動してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

例年、この時期は桜は散ってしまっているのですが、昨日は長雨が上がったのを幸いに、津市美杉町の君ヶ野ダムの桜を見てきました。今年は、春先の気温が低めであったせいか、見事な桜風景で、駐車場がほぼ満車となる程に賑わっていました。過疎化が進む地域では、毎月何かで人が集まり、ビジネスに繋がるような仕掛けを作るためのプロジェクトが必要ではないかと思いました。

ところで、最近読んだ本に勝川俊雄著、「魚が食べられなくなる日」(小学館新書、2016年8月発刊)があります。著者は、東京海洋大学准教授で水産資源管理と資源解析を専門としています。本書で、世界銀行レポート(2030年見通し)を紹介していますが、これによると世界的には水産業は成長産業となっていますが、日本だけが1人負けとなっていることが書かれています。著者は、日本漁業の衰退傾向に危機感を抱き、日本の漁業を持続可能な産業に再生するための活動を積極的にされています。本書において著者は、日本の漁業の衰退傾向を改善していくための提案を幾つかしています。例えば、乱獲→獲れない→売れない→儲からない→漁獲衰退・後継者難といった負の連鎖を断ち切るための1つの提案として、世界的な趨勢である個別漁獲割当制度の導入について多くの頁をさいてその必要性を説明しており、水産政策もそのような方向に転換すべきとしています。また、漁業関係者は、海外の漁業からもっと学ぶべきであるとし、往々にして日本人は、組織の中では変化を避け、問題を先送りする傾向があるが、現実を逃避せず、戦略的に考えて、状況の変化に迅速に対応していくことが求められていると指摘しています。また、若い世代を中心に魚を食べなくなっているが、日本の魚食文化を守ることが、日本漁業を育てることになることをもっと知ってもらう必要があるとしています。本書を読むことにより、日本の漁業の状況と問題点、持続的産業となるための方策等について広く知ることができます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研 ～ メールマガジン 第 149 号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

====

**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成 29 年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術
移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
- ☆NP0法人東海地域生物系先端技術研究会総会及び第 1 回セミナー (6月22日)
- ☆平成 29 年度の東海生研・行事予定
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」(5月～12月、計7回)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
- ☆平成 29 年度地域産学バリュープログラム (JST)
- ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)
- ステージⅢ：NexTEP-A タイプ
- ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)
- ステージⅢ：NexTEP-B タイプ
- ☆国際科学技術共同研究推進事業 (戦略的国際共同研究プログラム) (JST)
- 平成 29 年度 日本ー中国共同研究課題の募集
- ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成 29 年度未来創造ベンチャータイプ (JST)
- ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成 29 年度一般タイプ (JST)
- ☆平成 29 年度戦略的創造研究推進事業 (CREST) (JST)
- ☆平成 29 年度戦略的創造研究推進事業 (さきがけ) (JST)
- ☆平成 29 年度研究開発成果実装支援プログラム (JST)
- ☆平成 29 年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)
- ☆平成 29 年度研究開発型ベンチャー支援事業 (NEDO)
- ☆平成 29 年度国際研究開発／コファンド事業／ (NEDO)
- 日本ーイスラエル研究開発協力事業
- ☆平成 29 年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
- ☆民間の競争的研究資金

◆ 1 ◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業

☆平成29年度NPO法人東海地域生物系先端技術研究会総会および第1回セミナー

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会通常総会と第1回セミナーを下記の通り開催します。

【開催日時】平成29年6月22日（木）14:30～15:30 総会
15:45～16:45 第1回セミナー

【開催場所】ウインクあいち（愛知県産業労働センター）13階 1302号室
アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【第1回セミナー】

講演： 「地域農業の将来を考える視点」

愛知県農業振興基金理事長（NPO法人東海生研副理事長）可知祐一郎氏

【情報交流会】ウインクあいち13階 1306号室 会費制：3000円

【参加申込み】セミナー参加のみは無料です。お申し込みは、本メールマガジン最下段の「お問い合わせ先」宛てに、電子メール又はファックスで、所属・氏名をご連絡下さい。一般の方も参加できます。

☆平成29年度の東海生研・行事予定

- 第2回セミナー： 10月17日（火）13:30～ ウインクあいち
- アグリビジネス創出フェア2017 in 東海： 11月7日（火）、8日（水）
名古屋大学野依記念学術交流館
- 第3回セミナー： 11月21日（火）ウインクあいち
- 競争的資金説明会： 1月中旬
- 情報誌「バイオテック東海」： 12月発行予定

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」

【開催日時】平成29年5月～6月及び9月～12月（計7回）

【開催場所】名古屋大学、豊田森林組合、ポートメッセなごや

【都市の木質化講座2017ポスター】http://www.nagoya-u.ac.jp/international/upload_images/toshinokisituka2017.pdf

【主催】名古屋大学大学院生命農学研究科・都市の木質化プロジェクト

【対象者】林・林産・建築業関係者、行政関係者、一般市民（大学生以上）

【定員】30～40名

【参加費】テキスト代 1000円（7回分）、受講料無料（保険料・オプションは別途）

【申込み方法】上記のポスター（pdf）に書かれています。

【都市の木質化プロジェクト】<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~biomeng/toshimoku/>

【問い合わせ先】生命農学研究科 生物材料工学研究室

TEL:052-789-4146・4148 FAX:052-789-4147
E-mail: woodismnagoya@gmail.com
お申し込みは、E-mailにてお送り下さい。

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成29年度競争的研究資金等について

☆平成29年度地域産学バリュープログラム (JST)

<http://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

分野等：昨年度までのマッチングプランナー・プログラムが地域産学バリュープログラムに変わりました。本プログラムでは、地域における企業の競争力強化に資するべく、法人格を有する企業等の開発ニーズ（以下、企業ニーズという）の解決等のため、大学等を対象に、大学等が保有する研究成果、知的財産（以下、「大学シーズ」という）がその解決に資するかどうかを確認するための試験研究開発費を支援する。支援にあたっては、大学等に在籍するコーディネータ等、事業化を目指す企業担当者や、国立研究開発法人科学技術振興機構（以下、「JST」という）が配置するマッチングプランナーなどの橋渡し人材が把握した企業ニーズと、対象となる大学シーズがマッチングされていることが前提です。産学共同研究開発の初期段階を支援することで、企業ニーズの解決に資するコア技術を創出し事業化を目指します。さらに、本格的な共同研究開発に繋げることにより将来的には社会的・経済的な波及効果が創出されることを狙いとする。

公募期間：平成29年3月29日（水）～5月31日（水）正午

☆研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)

平成29年度 ステージⅢ：NexTEP-Aタイプ（第一回）

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～7月31日

.....
☆研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)

平成29年度 ステージⅢ：NexTEP-B タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-b-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づく実用性が検証されているシーズのうち、研究開発型企業の比較的小さな規模の実用化開発を支援する。

公募期間：平成29年3月1日～6月9日

.....
☆国際科学技術共同研究推進事業（戦略的国際共同研究プログラム） (JST)

平成29年度 日本－中国共同研究課題の募集

http://www.jst.go.jp/inter/sicorp/announce_ch_NSFC2nd.2017.html

分野等：植物－微生物共生系、微生物叢の機能と制御に着目した基盤技術の創出

公募期間：平成29年3月13日～5月19日

.....
☆産学共同実用化開発事業NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う、未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～7月31日

.....
☆産学共同実用化開発事業NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～7月31日

.....
☆平成29年度戦略的創造研究推進事業 (CREST) (JST)

<http://senryaku.jst.go.jp/teian.html>

分野等：環境変動に対する植物の頑健性の解明と応用に向けた基盤技術の創出等

公募期間：平成29年4月12日～6月6日

.....
☆平成29年度戦略的創造研究推進事業 (さきがけ) (JST)

<http://senryaku.jst.go.jp/teian.html>

分野等

- ・フィールドにおける植物の生命現象の制御に向けた次世代基盤技術の創出

- ・情報科学との協働による革新的な農産物栽培手法を実現するための技術基盤の創出等

公募期間：平成29年4月12日～5月30日

☆平成29年度研究開発成果実装支援プログラム 社会技術研究開発センター (JST)

http://ristex.jst.go.jp/proposal/current/proposal_2017.html

分野等：多くの人々が解決を望む社会の問題の解決に向けて、研究開発成果の実装に取り組む活動を支援する。対象とする領域としては、

- ・人口減少と高齢化がさらに進行することによって生ずる課題
 - ・環境・エネルギー・資源や食料などに関わる課題
 - ・都市や地方の創生にかかわる課題
 - ・国民の安全・安心に関わる諸課題（災害の復旧・復興を含む）
 - ・社会的弱者の支援、健全なこども・青少年の育成に関わる課題
- などを重視する。

公募期間：平成29年4月14日～6月8日

☆平成29年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2017/170414mono.htm>

分野等：1. デザイン開発に係る技術、2. 情報処理に係る技術、3. 精密加工に係る技術、4. 製造環境に係る技術、5. 接合・実装に係る技術、6. 立体造形に係る技術、7. 表面処理に係る技術、8. 機械制御に係る技術、9. 複合・新機能材料に係る技術、10. 材料製造プロセスに係る技術、11. バイオに係る技術、12. 測定計測に係る技術

公募期間：平成29年4月14日～6月8日

☆平成29年度研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する事業化支援 (NEDO)

http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100144.html

分野等：ベンチャーエコシステムにおいて重要な役割を果たすベンチャーキャピタル及びシードアクセラレータ等とNEDOが協調し、シード期の研究開発型ベンチャーが必要とする研究開発及び事業化に必要な資金、並びにその活動を支援する。

公募期間：平成29年4月3日～5月31日

☆平成29年度 国際研究開発/コファンド事業/日本－イスラエル研究開発協力事業 (NEDO)

http://www.nedo.go.jp/koubo/AT092_100106.html

分野等：NEDOは、平成26年7月、イスラエル産業技術研究開発センターとの間で基本協定書を締結し、両国の産業技術分野における研究開発を促進するこ

とに合意した。本事業では基本協定書に基づき、両国企業の共同研究開発を支援する。対象となる技術分野は、新エネルギー、省エネルギー、スマートコミュニティ、環境、ロボット、機械システム、電子・情報、材料・ナノテクノロジー、バイオテクノロジー等で、研究開発要素を含む事業とする。

公募期間：平成29年4月7日～6月15日

☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- ① いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- ② G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- ③ 以心伝心ICTサービス基盤
- ④ フレンドリーICTサービス技術
- ⑤ 社会インフラ維持管理サービス技術
- ⑥ レジリエント向上ICTサービス技術
- ⑦ 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合をはかるなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～30年3月30日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください (下記の URL)。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆農業・食品情報関係

・農林水産省のホームページに農業技術・研究の見える化サイトが開設されました！

農林水産省は、様々な農業技術に関する情報を集約した「農業技術総合ポータルサイト」、研究者や研究成果等の情報を提供する「まるみえアグリ：農業研究見える化システム (仮称)」を本年4月10日に公開しました。

<概要>

農林水産省は、農業現場における技術的問題の解決に役立てるために、最新の技術や研究成果について、生産者が活用しやすい環境を整備しました。これまで、ホームページ等に分散していた農業技術に関する情報を集約し、一元的に検索可能な「農業技術総合ポータルサイト」を公開しました。また、多数の農業研究者と研究成果等を検索できる「まるみえアグリ：農業研究見える化システム（仮称）」を公開しました。これらは、スマホ・タブレットでも閲覧できます。

「農業技術総合ポータルサイト」は、下記の URL より御覧下さい。

http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/gijutsu_portal/top.html

新規就農者や新たな作物に挑戦する人が知りたい各品目の基本的な栽培技術の情報のほか、現場が直面している課題解決に役立つ様々な実用化技術やマニュアルなどを知ることができます。また、最新の研究成果や研究者にアクセスしたい先進農家等は「まるみえアグリ」を利用できます。

「まるみえアグリ：農業研究見える化システム（仮称）」は、下記 URL から御覧下さい。

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/>

平成29年4月10日までに収録された研究者と研究成果の数は、それぞれ約3,300名と約28,000件で、今後も充実させる予定となっています。生産者をはじめ、普及指導機関、関連団体・企業等により活用されることが期待されています。

☆野菜関係

- ・船便によるイチゴ輸出に適したパッケージ方法
(国立研究開発法人農研機構・九州沖縄農業研究センター)

イチゴの輸出は果実の損傷を防ぐために、航空便によって行われています。一方、輸送の低コスト化を目的に冷蔵コンテナを用いた船便の導入が提案されていますが、輸送期間が長期となることから品質保持が困難であり、いまだ実現に至っていません。そこで、果実の損傷程度を低減できる伸縮性フィルム容器(2010年度研究成果情報)もしくは宙吊り型新型容器に、MA(Modified Atmosphere)包装による鮮度保持技術(2007年度研究成果情報)を併用してシンガポールへの輸送試験を実施し、両技術の応用例として、船便でもイチゴの品質保持が可能なパッケージ方法を提示しました。

「まるみえアグリ」：船便によるイチゴ輸出に適したパッケージ方法

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/237347>

☆水産関係

- ・クルマエビ類の種苗放流技術の高度化（愛知県水産試験場・漁業生産研究所）

クルマエビ類は、単価の高い沿岸漁業種ですが、最近はその漁獲量が最盛期の8分の1近くにまで減少しています。漁獲量を回復させるために、効果的・効率的な放流を行う必要があります。このため、これまで難しかった人為催熟技術を実用化するとともに、従来よりも捕食魚（ヒメハゼ）の生育密度が低く、個体サイズが小さい春季に放流することでクルマエビの回収率を高め、放流効果を上げることが出来ました。

水産研究成果情報：エビ類種苗放流技術高度化試験

http://fra-seika.fra.affrc.go.jp/~dbmng/cgi-bin/search/search_detail.cgi?RESULT_ID=4800&YEAR=2014

.....
編集後記

5月の連休が終わりましたが、今年は5月1日、2日に休みを取ると9連休となりました。海外旅行、国内旅行、里帰り、身近なところでの楽しみ等々、リフレッシュされたことと思います。ゴールデンウィークには、車の渋滞が大変で、遠出を控える方も多いかと推察されますので、近場でのイベントは、集客数を伸ばせる可能性があります。そのような中、三重県の伊勢志摩では、「お伊勢さん菓子博 2017」が連休後の5月14日まで開催されています。

ところで、最近読んだ本に井上智洋著「人工知能と経済の未来～2030年雇用大崩壊～」(文春新書、2016年7月発刊)があります。著者は、駒沢大学経済学部准教授で、計算機科学とマクロ経済学の専門家であり、日進月歩で進化を続けている人工知能が、将来の経済・雇用に及ぼす影響について述べています。現在でもディープラーニングに基づくAI(人工知能)技術は、チェス、将棋、囲碁で世界チャンピオンに勝つほどの進歩を遂げ、あるいは工場の自動化など、特化型AIとしての利用が進んでいます。2015年頃から、人間の知的なふるまいを一通りこなせる汎用AIの開発が世界的に競争となっています。これに勝った国が経済的に世界の覇者となっていく可能性が予想されています。2030年頃に汎用AIが実用化し、2045年頃にはこれが普及し、機械(ロボット)が人の雇用を奪い、全人口の1割しか人の雇用が無く、経済・社会のあり方が抜本的に変わる(シンギュラリティーという)可能性が述べられています。本書では、そのような時代における生活保障のあり方までも述べられています。2030年、2045年はまだ先ですが、AI技術の進歩は、それまでも順次進み、高齢化・人口減による労働力不足を補い、労働生産性を高めるというポジティブな面と、雇用機会が少なくなるというネガティブな面がありますが、この進歩に乗り遅れると国際競争に負けたり、労働力不足により企業経営に支障を来すことなどが想定されることなどからも、AI化の進行を止めることは出来ないでしょう。本書は、かなりショッキングな内容を含みますが、AI化の状況を知り、将来の社会・経済の有様を予想し、将来の企業経営のみならず、子供や孫の未来にも思いを馳せる上でも参考になるかと思われます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX：052-789-4586

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研 ～ メールマガジン 第150号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成29年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
 - ☆NP0法人東海地域生物系先端技術研究会総会及び第1回セミナー（6月22日）
 - ☆平成29年度の東海生研・行事予定
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
 - ☆三重大学生物資源学研究所 平成29年度第1回環境農林水産フォーラム（6月17日）
 - ☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」（5月～12月、計7回）
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
 - ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
 - ☆「知」の集積と活用による革新的技術創造促進事業（農研機構・生研支援センター）
 - ☆平成29年度林業技術革新プロジェクトのうち森林作業システム高度化技術開発事業（林野庁）
 - ☆平成29年度CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業（第2次募集）（環境省）
 - ☆平成29年度未来社会創造事業（探索型・大規模プロジェクト型）（JST）
 - ☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）（JST）
 - ステージⅢ：NexTEP-Aタイプ
 - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ（JST）
 - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ（JST）
 - ☆平成29年度 戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）（総務省）
 - ☆平成29年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム（総務省）
 - ☆民間の競争的研究資金

◆1◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業

☆平成29年度NPO法人東海地域生物系先端技術研究会総会および第1回セミナー

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会は、通常総会と第1回セミナーを下記の通り開催します。

【開催日時】平成29年6月22日（木）14：30～15：30 総会
15：45～16：45 第1回セミナー

【開催場所】ウインクあいち（愛知県産業労働センター）13階 1302号室
アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【第1回セミナー】

講演： 「地域農業の将来を考える視点」

愛知県農業振興基金理事長（NPO法人東海生研副理事長） 可知祐一郎氏

【情報交流会】ウインクあいち13階 1306号室 会費制：3,000円

【参加申込み】セミナー参加のみの場合は無料です。お申し込みは、下記の開催案内のURLをクリックして申込書を取り出し、必要事項をご記入の上、電子メール又はファックスにてお送り下さい。一般の方も参加できます。

開催案内のURL：<http://www.biotech-tokai.jp/archives/1206>

☆平成29年度の東海生研・行事予定

- 第2回セミナー： 10月17日（火）13：30～ ウインクあいち
- アグリビジネス創出フェア2017 in 東海： 11月7日（火）、8日（水）
名古屋大学野依記念学術交流館
- 第3回セミナー： 11月21日（火）ウインクあいち
- 競争的資金説明会： 1月中旬
- 情報誌「バイオテック東海」： 12月発行予定

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成29年度 第1回環境農林水産フォーラム

三重大学大学院生物資源学研究科

～東紀州サテライト・東紀州産業振興学舎（天満荘）～

【開催日時】平成29年6月17日（土）13：30～16：00（受付13時～）

【開催場所】三重県立熊野古道センター（映像ホール）

【主催】三重大学大学院生物資源学研究科 教育研究推進センター
三重大学地域拠点サテライト東紀州サテライト

【共催】NPO 法人天満浦百人会

【対象】関連の企業・団体、一般の方

【内容及び参加申込】下記のURLをご覧ください。

<http://www.bio.mie-u.ac.jp/cate/news/291.html>

【チラシ】<http://www.bio.mie-u.ac.jp/33afa12a40a834233c5b6ea46e4d674a.pdf>

.....
☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」

【開催日時】平成29年5月～6月及び9月～12月（計7回）
【開催場所】名古屋大学、豊田森林組合、ポートメッセなごや
【都市の木質化講座2017ポスター】
http://www.nagoya-u.ac.jp/international/upload_images/toshinokisituka2017.pdf
【主催】名古屋大学大学院生命農学研究科・都市の木質化プロジェクト
【対象者】林・林産・建築業関係者、行政関係者、一般市民（大学生以上）
【定員】30～40名
【参加費】テキスト代 1000円（7回分）、受講料無料（保険料・オプションは別途）
【申込み方法】上記のポスター（pdf）に書かれています。
【都市の木質化プロジェクト】<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~biomeng/toshimoku/>
【問い合わせ先】名古屋大学大学院生命農学研究科 生物材料工学研究室
TEL:052-789-4146・4148 FAX:052-789-4147
E-mail: woodismnagoya@gmail.com
お申し込みは、E-mailにてお送り下さい。

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

☆アグリビジネス創出フェア2017（東京ビッグサイト）

平成29年度のアグリビジネス創出フェア2017は、下記の通り、10月4日～6日に東京ビッグサイトで開催されます。

【開催日時】平成29年10月4日（水）～6日（金） 10:00～17:00
【開催場所】東京ビッグサイト 東7ホール（東京都江東区有明3-11-1）
【入場料・出展料】無料（事前又は当日登録が必要）
【開催規模】予定参加者数延べ35,000人以上、出展300小間程度（うち一般の出展者210小間程度）
【ホームページ】<http://agribiz-fair.jp/>
【お問い合わせ】アグリビジネス創出フェア2017事務局
（一般社団法人日本能率協会 産業振興センター内）
TEL:03-3434-1988 FAX:03-3434-8076 E-mail: abf@jma.or.jp

.....
○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成29年度競争的研究資金等について

☆「知」の集積と活用による革新的技術創造促進事業（異分野融合発展研究）

（国立研究開発法人農研機構 生物系特定産業技術研究支援センター）

<http://www.naro.affrc.go.jp/brain/ibunya-hatten/koubo/index.html>

分野等：

1. セルロースナノファイバー(CNF)又はその複合素材の農林水産・食品産業への活用に向けた研究開発
2. 日本食(日本型の食事パターン)の評価手法の策定及び健康増進効果との関連性に関する研究開発

公募期間：平成29年5月26日～6月23日

☆平成29年度林業技術革新プロジェクトのうち森林作業システム高度化技術開発事業
(林野庁)

http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/itaku/20170501_1.html

分野等：

1. 傾斜地での再造林作業を省力化する林業機械の開発
2. 架線集材における荷掛作業の省力化技術の開発

公募期間：平成29年5月1日～6月16日

☆平成29年度CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業(2次公募)(環境省)

<http://www.env.go.jp/press/104092.html>

分野等：

1. 交通低炭素化技術開発分野
2. 建築物等低炭素化技術開発分野
3. 再生可能エネルギー・自立分散型エネルギー低炭素化技術開発分野
4. バイオマス・循環資源低炭素化技術開発分野

公募期間：平成29年5月24日～6月21日

☆平成29年度未来社会創造事業(探索加速型・大規模プロジェクト型) (JST)

<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/application/research/index.html>

分野等：

1. 探索加速型(「超スマート社会の実現」領域、「持続可能な社会の実現」領域、「世界一の安全・安心社会の実現」領域、「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域)
2. 大規模プロジェクト型

公募期間：平成29年6月7日～7月19日

☆研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) (JST)

平成29年度 ステージⅢ：NexTEP-Aタイプ(平成29年度第一回)

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～7月31日

.....
☆産学共同実用化開発事業NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う、未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～7月31日

.....
☆産学共同実用化開発事業NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～7月31日

.....
☆平成29年度 戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE) (総務省)

『異能 (Innovation)』プログラム『破壊的な挑戦部門』

<http://www.inno.go.jp/h29/hakai.php>

分野等：ICT (情報通信技術) 分野において、破壊的価値を創造する、奇想天外でアンビシャスな技術課題への挑戦を支援する。

公募期間：平成29年5月22日～6月30日

.....
☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- ① いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- ② G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- ③ 以心伝心ICTサービス基盤
- ④ フレンドリーICTサービス技術
- ⑤ 社会インフラ維持管理サービス技術
- ⑥ レジリエント向上ICTサービス技術
- ⑦ 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合をはかるなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～30年3月30日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆農業・食品情報関係

・農林水産省のホームページに農業技術・研究の見える化サイトが開設されました！

農林水産省は、農業現場における技術的問題の解決に役立てるために、最新の技術や研究成果について、生産者が活用しやすい環境を整備しました。具体的には、これまでホームページ等に分散していた農業技術に関する情報を集約し、一元的に検索可能な「農業技術総合ポータルサイト」を本年4月10日に公開しました。また、多数の農業研究者と研究成果等を検索できる「まるみえアグリ：農業研究見える化システム（仮称）」を公開しました。これらは、スマホ・タブレットでも閲覧できます。

「農業技術総合ポータルサイト」は、下記のURLより御覧下さい。

http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/gijutsu_portal/top.html

新規就農者や新たな作物に挑戦する人が知りたい各品目の基本的な栽培技術の情報のほか、現場が直面している課題解決に役立つ様々な実用化技術やマニュアルなどを知ることができます。

「まるみえアグリ：農業研究見える化システム（仮称）」は、下記URLから御覧下さい。

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/>

最新の研究成果や研究者にアクセスしたい先進農家等は「まるみえアグリ」を利用できます。平成29年4月10日までに収録された研究者と研究成果の数は、それぞれ約3,300名と約28,000件で、今後も充実させる予定となっています。生産者をはじめ、普及指導機関、関連団体・企業等により活用されることが期待されています。

☆野菜関係

・船便によるイチゴ輸出に適したパッケージ方法

(国立研究開発法人農研機構・九州沖縄農業研究センター)

イチゴの輸出は果実の損傷を防ぐために、航空便によって行われています。一方、輸送の低コスト化を目的に冷蔵コンテナを用いた船便の導入が提案されていますが、輸送期間が長期となることから品質保持が困難であり、いまだ実現に至っていません。そこで、果実の損傷程度を低減できる伸縮性フィルム容器(2010年度研究成果情報)もしくは宙吊り型新型容器に、MA(Modified Atmosphere)包装による鮮度保持技術(2007年度研究成果情報)を併用してシンガポールへの輸送試験を実施し、両技術の応用例として、船便でもイチゴの品質保持が可能なパッケージ方法を提示しました。

「まるみえアグリ」：船便によるイチゴ輸出に適したパッケージ方法

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/237347>

☆食品関係

- ・ サツマイモでん粉廃液から調製したサツマイモペプチドの脂質代謝改善作用

サツマイモでん粉廃液から調製されたサツマイモペプチドは、マウス体内で血中の中性脂肪や LDL コレステロールの増加抑制作用および臓器への脂肪蓄積抑制作用を示しました。サツマイモペプチドを摂取させると、血中レプチンの増加が抑制することが分かりました。

「まるみえアグリ」：サツマイモでん粉廃液から調製したサツマイモペプチドの脂質代謝改善作用

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/234801>

☆畜産関係

- ・ 伏流式人工湿地ろ過システムは有機排水を冬期も含め長期間安定して浄化できる

養豚場、養鶏場、酪農施設等から排出される汚水の処理にコストがかかることから、省力的で低コストの処理法が求められています。2005年から産学官連携により開発されてきた「伏流式人工湿地ろ過システム」は、既に一部で導入が進んでいます。これまでの研究成果で、季節的にも経年的にも安定的に汚染処理が可能であり、一般的な活性汚泥処理法の運転費用(電気代、薬品代等)と比べて20分に1程度となります。この方法は、酪農メタン発酵消化液の排水処理、食品工場の排水処理にも応用されています。

「まるみえアグリ」：伏流式人工湿地ろ過システムは有機排水を冬期も含め長期間安定して浄化できる

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/237353>

☆林産関係

- ・ 国の庁舎整備で初めて CLT(直交集成材)パネル工法が採用されました

CLT を用いた建築物の一般的な設計法等に関して、これまで CLT を構造部材として用いるためには、建築物ごとに精密な構造計算を行い、大臣認定を受けることが必要でした。しかし、各種試験の結果、平成28年3月31日、4月1日に告示に基づく構造計算等を行うことにより、大臣認定を受けることなく建築確認により建築が可能となりました。また、3階建て以下の建築物では、防火被覆無しで CLT 等を用いた部材を壁、床又は屋根に用いることが可能となりました。今年度に、国の庁舎整備で初めて CLT パネル工法が採用されました。今後、スギ材などの CLT 化による用途拡大、需要拡大が望まれます。

林野庁プレスリリース：国の庁舎整備で初めて CLT パネル工法を採用

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/fukuri/170608.html>

国土交通省 HP：CLT を用いた建築物の一般的な設計法等の策定について

<http://www.mlit.go.jp/common/001125537.pdf>

☆水産関係

- ・低魚粉飼料で成長選抜したアマゴの成長改善効果

世界的な魚粉供給量のひっ迫により魚粉価格が高騰していることから、養殖用飼料への魚粉配合率を大幅に削減する技術開発が必要となっています。しかし、魚粉代替原料に含まれる生理阻害物質の影響や摂餌性の低下等が生じることが問題となっています。このため、アマゴをモデルとして選抜育種の手法を導入し、低魚粉飼料を与えても成長の優れる個体を継代飼育することにより、成長の優れる家系を得る試験を行いました。その結果、選抜系統では低魚粉飼料を与えた場合に成長改善効果がみられました。その原因は主に低魚粉飼料に対する摂餌性の改善によると考えられました。

「まるみえアグリ」：低魚粉飼料にて成長選抜したアマゴの成長改善効果

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/236854>

.....

編集後記

6月に入り、トランプ大統領が、地球温暖化防止のためのパリ協定（COP21）から米国を脱退させると表明し、世界を驚かせました。パリ協定では、全体の長期目標として、平均気温の上昇を産業革命前と比較して2℃未満に抑えることを掲げ、特に気候変動に脆弱な国々への配慮から、1.5℃以内に抑える努力を行うこととされています。このために、各国は炭酸ガス排出量の削減や途上国への資金援助を行うことになっています。国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第5次評価報告書では、今世紀末に最悪のシナリオでは平均気温が最高4.8℃上昇すると予測されています。この場合に名古屋の真夏の最高気温は45℃に達すると予測されます。世界の多くの科学者が炭酸ガス濃度が既に400ppmを超え、気温の上昇傾向が続いていることを観測し、各地で温暖化による様々な影響が観察されるなどの科学的知見を無視し、地球環境保全への責任を放棄することは、米国の威信を著しく低下させるばかりでなく、実際に米国自身が超大型台風の脅威にさらさ

れる危険性が増大するなど、多くの悪影響を被ることを大統領はじめ米国民によく理解してもらい必要があるようです。

ところで、最近読んだ本に恩蔵直人著「マーケティングに強くなる」(ちくま新書、2017年1月発刊)があります。著者は、早稲田大学商学大学院教授で、マーケティングに関する本を多く著しています。本書は、日本のマーケティングが実務的にも研究的にもデザイン面(審美性、機能性、人間工学的使いやすさ、安全性などの要素を含む)で立ち遅れ、国際競争に負けているという問題意識の下に書かれています。まず、マーケティングの進化について述べ、現在は第3ステージにあり、人々の感情的・精神的充足にまで踏み込んだ検討が必要になっているとしています。次に、顧客ニーズをつかむ場合に「顧客の顧客(B to Bの場合)」に結び付くことの重要性について述べています。更に、未来市場を志向し、その製品開発を成功させる開発チームのあり方について論じています。マーケティングにおける戦略的思考の重要性、イノベーションを起こすホワイトスペース戦略等についても、豊富な実例を挙げて述べています。本書は、企業の経営者、企画や営業関係者、開発・設計者などにとって、最新のマーケティング理論の基本を理解し、実際に役立てていく上で、たいへん参考になると思われます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

U R L <http://www.biotech-tokai.jp/>

＝－＝

東海生研 ～ メールマガジン 第151号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

＝－＝

***** 《もくじ》 *****

- 1. 平成29年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
 - ☆平成29年度の東海生研・行事予定
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
 - ☆機能性表示食品セミナー・相談会 (8月1日)
 - ☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」(5月～12月、計7回)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
 - ☆平成29年度「農村を元気にする総合的な実証研究」シンポジウム (8月9日) (農研機構)
 - ☆アグリビジネス創出フェア2017 (東京ビッグサイト) (10月4～6日) (農林水産省)
 - ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
 - ☆平成29年度農食研究推進事業「緊急対応研究課題」(第2回公募) (農林水産省)
 - ☆平成29年度未来社会創造事業(探索型・大規模プロジェクト型) (JST)
 - ☆研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) (JST)
 - ステージⅢ: NexTEP-A タイプ
 - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)
 - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
 - ☆戦略的国際共同研究プログラム 日本-英国(NERC)共同研究課題募集 (JST)
 - ☆植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発(追加公募) (NEDO)
 - ☆平成29年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
 - ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について



◆ 1 ◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業

☆平成29年度の東海生研・行事予定

- 第2回セミナー： 10月17日（火）13：30～ ウィンクあいち
- アグリビジネス創出フェア2017 in 東海： 11月7日（火）、8日（水）
名古屋大学野依記念学術交流館
- 第3回セミナー： 11月21日（火） ウィンクあいち
- 競争的資金説明会： 1月中旬
- 情報誌「バイオテック東海」： 12月発行予定

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆機能性表示食品セミナー・相談会

【開催場所】三重県教育文化会館 本館5階（下記のセミナー案内に地図が有ります）

【開催日時】平成29年8月1日（火）13：00～15：10

【第1部 講演会】

- ・制度の概要：生鮮・加工度割合の低い食品に絞り解説します！
グローバルニュートリショングループ 代表取締役 武田 猛 氏
- ・テクニック：生鮮食品の機能性実証には近道があります！
健康栄養評価センター 代表取締役 柿野賢一 氏
- ・実践：生鮮品分野第1号認証にいたる全てをお話しします。
株式会社サラダコスモ 研究開発部 部長 中田光彦 氏

【第2部 無料相談会】講師3人が個別にお答えします。1グループ（個人）30分以内

【セミナー案内】 http://www.ofsi.or.jp/kinousei_seminar/

【参加申込】参加費：無料、申込締切日：平成29年7月20日

☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」

【開催日時】平成29年5月～6月及び9月～12月（計7回）

【開催場所】名古屋大学、豊田森林組合、ポートメッセなごや

【都市の木質化講座2017ポスター】

http://www.nagoya-u.ac.jp/international/upload_images/toshinokisituka2017.pdf

【主催】名古屋大学大学院生命農学研究科・都市の木質化プロジェクト

【対象者】林・林産・建築業関係者、行政関係者、一般市民（大学生以上）

【定員】30～40名

【参加費】テキスト代 1000円（7回分）、受講料無料（保険料・オプションは別途）

【申込み方法】上記のポスター（pdf）に書かれています。

【都市の木質化プロジェクト】 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~biomeng/toshimoku/>

【問合わせ先】名古屋大学大学院生命農学研究科 生物材料工学研究室

TEL:052-789-4146・4148 FAX:052-789-4147

E-mail: woodismnagoya@gmail.com

お申し込みは、E-mailにてお送り下さい。

◆3◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

☆平成29年度「農村を元気にする総合的な実証研究」シンポジウム（農研機構）

～農村を元気にする研究開発とは～

農研機構は、地域の活性化に熱心な地方自治体の首長や営農団体の代表者等の協力を得て、中山間地域等の地域社会の維持・発展に向けた新たな現地実証型の研究開発に着手することになりました。その端緒として、3つの地域での取組みについて講演が行われます。

【開催日時】平成29年8月9日（水）12時45分～16時45分

【開催場所】日比谷コンベンションホール 日比谷図書文化館地下1階
（東京都千代田区日比谷公園1番4号）

【主催】農研機構

【講演内容】

- ・『『大地が人を育む、めむろ農業』～個性のまま生き、自立するまち～』
北海道芽室町長 宮西 義憲氏
（農研機構北海道農業研究センター 寒地畑作研究監 吉永 優氏）
- ・「雑とべに花の里でのスマート農村構想」
山形県河北町長 田宮 栄佐美氏
（農研機構農村工学研究部門 遠藤 和子氏）
- ・「土・人・地域をつくる『有機の里』構想の実現を目指して」
日本オーガニックカレッジ代表（広島県神石高原町） 田邊 真三氏
（農研機構西日本農業研究センター 尾島 一史氏）
- ・農研機構発「農村を元気にする研究開発」とは？
農研機構農業環境変動研究センター 山本 勝利氏

農研機構では「農村」という視点から、10余のテーマについて地域の活性化や将来像の実現のために必要な研究開発に関する調査に着手しています。本シンポジウムで個別に紹介できなかったテーマについてまとめて紹介します。

【開催案内】農研機構の下記 URL の開催案内をご覧ください。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/06/076038.html>

【チラシ】http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/sympo_flier20170731.pdf

【参加】定員 200 名、参加費無料、シンポジウム終了後の情報交換会は会費 4,000 円

参加申込：平成29年7月31日（月）までに、上記の開催案内についている参加申込書のファイルを取り出してご記入の上、下記メール宛先までお送り下さい。

申込先：E-mail: naro-noson@ml.affrc.go.jp FAX: 029-838-8525

☆アグリビジネス創出フェア2017（東京ビッグサイト）

平成29年度のアグリビジネス創出フェア2017は、下記の通り、10月4日～6日に東京ビッグサイトで開催されます。

【開催日時】平成29年10月4日（水）～6日（金）何れも10：00～17：00

【開催場所】 東京ビッグサイト 東7ホール (東京都江東区有明3-11-1)
【入場料・出展料】 無料 (事前又は当日登録が必要)
【開催規模】 予定参加者数延べ35,000人以上、出展300小間程度 (うち一般の出展者210小間程度)
【ホームページ】 <http://agribiz-fair.jp/>
【お問い合わせ】 アグリビジネス創出フェア2017事務局
(一般社団法人日本能率協会 産業振興センター内)
TEL:03-3434-1988 FAX:03-3434-8076 E-mail: abf@jma.or.jp

.....
○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆4◆ 平成29年度競争的研究資金等について

☆平成29年度農食研究推進事業「緊急対応研究課題」(第2回公募) (農林水産省)
http://www.affrc.go.jp/docs/press/170626_37.html

分野等: Fusarium oxysporum f. sp. pisi (エンドウ萎凋病菌) の迅速かつ簡易な同定手法の開発及び我が国への侵入原因の解明

公募期間: 平成29年6月26日~7月14日

.....
☆平成29年度セルロースナノファイバー活用製品の性能評価事業委託業務 (環境省)

http://www.env.go.jp/earth/ondanoka/biz_local/29_a44/index.html

分野等: セルロースナノファイバー活用材料で部品等を試作し、実機に搭載することで製品としての信頼性、CO2削減効果等の性能評価を実施するとともに、早期社会実装に向けた導入実証を行う。

公募期間: 平成29年6月20日~7月21日

.....
☆平成29年度未来社会創造事業(探索加速型・大規模プロジェクト型) (JST)

<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/application/research/index.html>

分野等:

1. 探索加速型(「超スマート社会の実現」領域、「持続可能な社会の実現」領域、「世界一の安全・安心社会の実現」領域、「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域)
2. 大規模プロジェクト型

公募期間: 平成29年6月7日~7月19日

.....
☆研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)

平成29年度 ステージⅢ：NexTEP-Aタイプ (平成29年度第一回)

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～7月31日

.....
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う、未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～7月31日

.....
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～7月31日

.....
☆戦略的国際共同研究プログラム 日本－英国 (NERC) 共同研究課題募集 (JST)

http://www.jst.go.jp/sicoro/announce_uk_NERC1st.html

分野等：海洋観測のための革新的な生物・生物地球化学センサー分野に関する日本と英国の国際共同研究

公募期間：平成29年6月20日～8月24日

.....
☆植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発 (追加公募) (NEDO)

http://www.nedo.go.jp/koubo/EF2_100001.html

分野等：

1. 遺伝子配列設計システム (情報解析技術) の開発のうち、文献情報等の公開データからの知識整理を補完するためのデータ処理・AI 基盤技術
2. 物質生産のための革新的なハイスループット合成・分析・評価技術
3. 情報解析システムの有効性検証を加速する技術、物質生産の実用化を加速する技術

公募期間：平成29年6月16日～7月18日

.....
☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!) (総務省)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- ① いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- ② G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- ③ 以心伝心ICTサービス基盤
- ④ フレンドリーICTサービス技術
- ⑤ 社会インフラ維持管理サービス技術
- ⑥ レジリエント向上ICTサービス技術
- ⑦ 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合をはかるなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～30年3月30日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください (下記の URL)。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆農業・食品情報関係

・農林水産省のホームページに農業技術・研究の見える化サイトが開設されました！

農林水産省は、農業現場における技術的問題の解決に役立てるために、最新の技術や研究成果について、生産者が活用しやすい環境を整備しました。具体的には、これまでホームページ等に分散していた農業技術に関する情報を集約し、一元的に検索可能な「農業技術総合ポータルサイト」を本年4月10日に公開しました。また、多数の農業研究者と研究成果等を検索できる「まるみえアグリ：農業研究見える化システム (仮称)」を公開しました。これらは、スマホ・タブレットでも閲覧できます。

「農業技術総合ポータルサイト」は、下記の URL より御覧下さい。

http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/gijutsu_portal/top.html

新規就農者や新たな作物に挑戦する人が知りたい各品目の基本的な栽培技術の情報のほか、現場が直面している課題解決に役立つ様々な実用化技術やマニュアルなどを知ることができます。

「まるみえアグリ：農業研究見える化システム（仮称）」は、下記 URL から御覧下さい。

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/>

最新の研究成果や研究者にアクセスしたい先進農家等は「まるみえアグリ」を利用できます。平成29年4月10日までに収録された研究者と研究成果の数は、それぞれ約3,300名と約28,000件で、今後も充実させる予定となっています。生産者をはじめ、普及指導機関、関連団体・企業等により活用されることが期待されています。

☆野菜関係

- ・キャベツの出荷予測による産地間リレー出荷策定を支援するアプリケーションの開発

加工原料用キャベツ生産において、生産者が実需者と長期間の契約取引を行うためには、できるだけ年間を通して出荷するのが得策です。このためには、出荷時期が異なる産地間で連携する必要があります。契約栽培において、産地間で計画出荷するためには、出荷時期・数量から逆算して作付計画を立てる必要がありますが、気候等の異なる複数の地域にまたがる産地間でリレー出荷することは容易ではありません。

農研機構・中央農業総合研究センター（現在 中央農業研究センター）では、キャベツの契約栽培を前提に産地内の出荷調整や産地間連携を支援するため、生育モデルとメッシュ農業気象データによる生育シミュレーションで出荷予測を行うアプリケーションを開発しました。

「まるみえアグリ」：キャベツの出荷予測による産地間リレー出荷策定支援アプリケーション

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/237572>

☆食品関係

- ・グルテン不使用の100%米粉の製造技術を開発しました

パンの原料である小麦にはグルテンが含まれており、人によっては小麦アレルギーやセリアック病を起こすことが知られています。このような場合に、グルテンを含まない米粉パンが望まれます。しかし、米粉パンでは膨らみが悪いなどの問題が生じます。

農研機構・食品研究部門と広島大学は、グルテンや増粘剤を使わずに米粉パンを製造する技術を開発しました。市販のオーブンで、補助材料を使用しなくても基本原料のみで製造できます。上記の症状を有する人達向けに特化したパンの製造ができますので、今後、海外展開も期待される技術と思われる。なお、この製造法は、特許とされていますので、利用する場合は特許実施利用許諾を得て、詳しい製法を教えてください。

農研機構ホームページ：グルテン不使用の100%米粉パンの製造技術を開発しました

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nfri-neo/073238.html

☆畜産関係

- ・網を利用した MAP 結晶化法による豚舎汚水中リンの除去回収技術

肥料成分のリンは、リン鉱石の国際価格の上昇・高止まり傾向から、価格抑制のために国内での自給率の向上も視野に、技術開発を進める必要があります。

農研機構・畜産研究所（現在 畜産研究部門）では、豚舎汚水中のリン酸マグネシウムアンモニウム（MAP）の結晶を付着させるための網を、汚水を曝気する時に入れて、リンを回収する方法を開発しました。これにより、水質汚濁物質であるリンの除去と、資源であるリンの回収を同時に達成することができます。回収したリンは肥料として利用することができます。

農研機構ホームページ：網を利用した MAP 結晶化法による豚舎汚水中リンの除去回収技術
<http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/nilgs/2008/nilgs08-04.html>

☆林産関係

- ・高性能なセルロースナノファイバーとプラスチック複合材料を簡単に調製する技術を開発

セルロースナノファイバーは、プラスチックに混ぜることで、プラスチックの強度を向上させることができます。しかし、セルロースナノファイバーとプラスチックは、熔融混練などの一般的な方法では均一に混ぜるのが非常に難しいという課題があります。

国立研究開発法人 森林研究・整備機構の研究成果によると、簡単かつ均一にセルロースナノファイバーとプラスチックを混ぜる手法が開発されました。本手法では、セルロースナノファイバーを水中で分散させて、この水溶液中でプラスチックモノマーを重合し、ポリマーナノ粒子として析出させることで、両者が均一に混ざった混合分散液が調製できました。この混合液をろ過によって集めることで、セルロースナノファイバーとポリマーナノ粒子が均一に混ざった複合体が得られ、この複合体を熱成型することで、一般的なプラスチックのように透明フィルムをつくることができました。得られた複合フィルムは、セルロースナノファイバーの補強効果によって、何も混ぜていないプラスチックフィルムよりも優れた強度や耐熱性を示しました。この方法は簡単で特別な薬品を必要とせず、本法を用いることで、安価かつ高機能な複合材料の開発が期待でき、植物資源の有効利用へつながる可能性があります。また、高強度化によってプラスチックを薄くできるので、製品の軽量化が図れ、省エネルギーや石油資源の節約にもつながります。

森林研究・整備機構 研究成果：

高性能なセルロースナノファイバーとプラスチック複合材料を簡単に調製する技術を開発

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/research/saizensen/2017/20170309-01.html>

☆水産関係

・アカモクの適正漁獲手法と増殖手法の開発

三重県の伊勢志摩地方では、最近までアカモクは、ノリ養殖や船のスクリューなどに絡みつくなど邪魔者として扱われ、食用として利用されてきませんでした。一方、東北地方や京都府などでは、郷土食として好まれてきました。

アカモクは、北海道から鹿児島までの沿岸に広く分布しており、春先に繁茂し10mぐらいいまで生長します。最近では、アカモクは、ネバネバ成分のフコイダンの機能性や、水溶性植物繊維の豊富さなど、体に良い食物として見直され、美味しい加工法も考案され、三重県でも販売されるようになりました。

福岡県水産海洋技術センターでは、アカモク資源の安定的持続的な利用をめざして、アカモクの成熟生態に基づく適正な漁獲方法と増殖法を明らかにしました。

アカモクには、深場で葉長が10m程度となる早期成熟群と、浅場で葉長が2m程度の晩期成熟群が有り、早期成熟群、晩期成熟群の順に漁獲すると、3か月にわたって漁獲できます。また、漁獲に際して、再生産を確保するために、藻体の基部から葉長の6割を残し、先端部の4割を採取すればよいことを明らかにしました。

「まるみえアグリ」：アカモクの適正漁獲手法と増殖手法の開発

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/230191>

データベース AgriKnowledge：アカモクの適正漁獲手法と増殖手法の開発

<http://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/3010020691>

.....

編集後記

最近の話題として、愛知県瀬戸市出身で14歳の中学生プロ棋士、藤井聡太4段が、プロデビューから29連勝して注目を集め、将棋ブームを起こしたことが挙げられます。5歳の時に祖父から手ほどきを受け、将棋教室に通い、6歳でアマチュア初段、その後どんどん強くなったようですが、才能と努力、将棋をする良い環境があったためと思われる。

スポーツの世界でも、卓球、フィギュアスケート等で10代の選手の進出が目覚ましいのに驚かされます。皆、幼少の頃から始め、夢中になって打ち込み、良い指導者に恵まれた結果と思われる。

感受性と好奇心の旺盛な幼少時の鮮烈な体験は、その後の子供の興味・関心の持ち方に影響するところが大きいと思われる。先日のテレビで、史上最年少の9歳で「野菜ソムリエ」の試験に合格した森之少年のことが放送されましたが、野菜について興味しんしんで非常に詳しいのに驚かされました。

翻って、農林水産分野では、食育が重視されていますが、食育基本法の前文には、「国民の『食』に関する考え方を育て、健全な食生活を実現することが求められるとともに、都市と農山漁村の共生・対流を進め、『食』に関する消費者と生産者との信頼関係を構築して、地域社会の活性化、豊かな食文化の継承及び発展、環境と調和のとれた食料の生産及び消費の推進並びに食料自給率の向上に寄与することが期待されている」と書かれてい

ます。子供たちに、農業体験や、興味深い作物の話などを通じて、農林水産業が奥の深い面白い世界であることを知ってもらうことが、将来、この世界で活躍してもらう下地になるのではないかと思います。農林水産業をめぐる様々な技術・知識の検定制度、資格制度など、子供たちでも取り組むことができ、勉強の成果を実感し、向上心を満足させることができ、将来的にも役立つような仕組み作りを考えてみてはどうでしょうか。

ところで、最近読んだ本に西田栄喜著「小さい農業で稼ぐコツ ～加工・直販・幸せ家族農業で30a、1200万円～」(農文協、2016年2月発刊)があります。著者は、石川県で自称「日本一小さい農家」を営む脱サラ・専業農家です。バーテンダー、ホテルマンを経験し、オーストラリアの農家にホームステイした時に、販売場所が近くにある日本の農業のメリットに目覚め、就農しゼロからスタートしました。したがって、高価な農業機械などは購入せず、ビニールハウスで少量多品目生産を行い、奥さんが漬物などの加工を担当し、幾種類もの野菜や加工品を詰め合わせてお得意さんに送るとともに、農業体験なども組み合わせて、年間売上1200万円、収入600万円の立派な経営をされています。

本書には、ここまでに至る過程が書かれていますが、販売努力、狭い場所での多品目生産のノウハウ、6次産業化を地で行く加工など、こと細かに解説してありますので、読者の中には、自分でも可能なのではないかと思われる方もいるかもしれません。日本農業の将来は、大規模化、機械化、IT化しかないと思われがちですが、著者のように消費者に密着してその要望に応えつつ、大規模農業とは違った形の家族による創意工夫に満ちた農業経営も可能であり、あるいは、そのような家族経営も残っていく必要があるのではないかと思います。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研 ～ メールマガジン 第152号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成29年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
 - ☆平成29年度第2回セミナーの開催について (10月17日)
 - ☆アグリビジネス創出フェア2017 in 東海 (開催予告) (11月7-8日)
 - ☆平成29年度第3回セミナー (開催予告) (11月21日)
 - ☆その他の行事等
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
 - ☆三重大学大学院生物資源学研究科主催オープンラボ「産学官コミュニティシンポ2017」 (9月1日)
 - ☆10年後への中山間地の農業像 (日本作物学会第244回講演会) (9月14日)
 - ☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」(5月～12月、計7回)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
 - ☆近畿地域マッチングフォーラムの開催 (9月20日)
 - ☆アグリビジネス創出フェア2017 (東京ビッグサイト) (10月4～6日)
 - ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
 - ☆平成29年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省)
 - ☆戦略的国際共同研究プログラム 日本-英国 (NERC) 共同研究課題募集 (JST)
 - ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージⅢ: NexTEP-タイプ (JST)
 - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)
 - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
 - ☆平成29年度国際研究開発/コファンド事業/日本-ドイツ研究開発協力事業 (NEDO)
 - ☆平成29年度研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する事業化支援 (第2回公募) (NEDO)
 - ☆平成29年度戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE)
 - 若手ICT研究者等育成型研究開発 (若手研究者枠・中小企業枠) (総務省)

- ☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

◆1◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業

☆平成29年度第2回セミナーの開催について

【目的】農林水産・食品産業分野の先進的研究・利用事例、研究開発を取りまく情勢等について理解を深める。また、企業・団体、大学、試験研究機関等の産学官の参加者が情報交流し、東海地域における研究開発とその実用化促進に資する。

【開催日時】平成29年10月17日(火) 13:30～17:00

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター)13階会議室(1307 1308)
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

- ・JR名古屋駅桜通口から ミッドランドスクエア方面 徒歩5分
- ・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

【演題・講師】

第1会場(1308会議室)

○水産部会 13:30～14:30

「アコヤガイ外套膜から分離した貝殻形成細胞の移植による真珠生産法の開発」

国立研究開発法人水産研究教育機構 増養殖研究所 養殖システム研究センター
研究開発専門員 淡路 雅彦 氏

○畜産部会 14:30～15:30

「養豚農家で使える受精卵移植技術 ～伝染病侵入の危険が少ない種豚導入に期待～」

愛知県農業総合試験場畜産研究部主任研究員 田島 茂行 氏

○食品部会 15:40～16:40

「食品製造・加工におけるHACCPと危害要因」

一般社団法人食品品質プロフェッショナルズ 水野 俊秋 氏

第2会場(1307会議室)

○トピックス 13:30～14:30

「機能性食品と食品用途特許を活用した健康食品の6次産業化」

SK特許業務法人 代表社員 奥野 彰彦 氏

○林産部会 14:30～15:30

「CLT(直交集成材)利用の現状と可能性、普及への課題」

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所

複合材料研究領域長 渋沢 龍也 氏

○作物部会 15:40～16:40

「接ぎ木技術の可能性と展望」

名古屋大学大学院生命農学研究科助教 野田口 理孝 氏

【技術相談】「技術相談」のある方は当日受付で、案件名、所属、氏名をご記入したものを提出していただきます。当日は時間がございませんので、後日、十分な時間を取って対応させていただきます。

【情報交流会】17:00～18:30（第2会場1307にて開催） 会費2,500円

【参加費】講演会は参加費無料

【参集範囲】NPO法人東海生研会員、農林水産・食品産業関連企業、農業団体、食品関係団体、建築業関連企業・団体、大学・高校等教育機関、国立研究開発法人、独立行政法人、公的試験研究機関、行政機関、その他内容に関心を有する者

【主催】特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

【後援】名古屋大学大学院生命農学研究科、農研機構中央農業研究センター、公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

【開催要領】<http://www.biotech-tokai.jp/archives/1530>

【申込み】上記開催要領のURLからセミナー申込書を取り出し、必要事項をご記入の上、下記のE-mail、又はFAXでお送り下さい。

E-mail : bio-npo2@y4.dion.ne.jp TEL&FAX : 052-789-4586

.....

☆アグリビジネス創出フェア2017 in 東海（開催予告：2017年8月9日現在）

【目的】

「アグリビジネス創出フェア 2017 in 東海」は、農林水産・食品産業分野における産学官連携によるマッチング促進を目的として、農林水産省の実施する「知」の集積による産学連携推進事業のうち知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業の一環として実施します。

本年度は、あいち産業科学技術総合センター・食品工業技術センターおよびNPO法人近畿アグリハイテクと共催し、講演会・セミナーも開催します。

【開催日時】平成29年11月7日（火）10:00～17:00

11月8日（水）10:00～17:00

【開催場所】名古屋大学 野依記念学術交流館

（名古屋市千種区不老町名古屋大学）

地下鉄名城線 名古屋大学 2番出口より徒歩4分

【内容】

（1）開会式 11月7日（火）10:00～10:20

（2）基調講演 7日（火）10:20～11:20

講師（予定）：農林水産省・農林水産技術会議事務局

講演名（予定）：「生物機能の高度活用による新たな農業と新産業の創出」

(3) 成果発表 7日（火）午前、午後

研究・教育機関の研究成果、企業の研究成果

(4) 特別講演 8日（水）13:00～14:00

講師：愛知学院大学教授 大澤 俊彦 氏

講演名：「農林水産物・食品の機能性と健康長寿社会」

(5) あいち産科技セ・食品工業技術センター セミナー 8日（水）14:00～15:30

(6) パネル等の展示 7日（火）10:00～8日（水）17:00

大学・各研究機関・高校・企業等研究成果、6次産業化新製品等の発表

(7) ポスターセッション 7日（火）午後、8日（水）午後

(8) 相談コーナー開設 7日（火）16:00～17:00

農林水産省産学官連携事業コーディネーターが対応

【出展募集要領】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/1469>

【参集範囲】 アグリビジネス創出フェアの展示・発表等にご関心のある方はどなたでもご参加ください。異分野のご専門の皆様もぜひご参加ください。

【主催】 特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

【共催】 NPO法人近畿アグリハイテク、あいち産科技セ・食品工業技術センター

【後援】 名古屋大学大学院生命農学研究科、農研機構中央農業研究センター

公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

【出展】 研究機関・企業・団体等：70ブース（予定）

【問い合わせ先】 特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 事務局（大石、道村）

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : b i o - n p o 2 @ y 4 . d i o n . n e . j p (道村)

.....

☆平成29年度第3回セミナー（開催予告）

～農林水産業におけるICT、IoT等の利用による技術革新（仮題）～

【開催日時】 平成29年11月21日（火）13:30～17:00

【開催場所】 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター）10階会議室（1008会議室）

（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）

・JR名古屋駅桜通口から ミッドランドスクエア方面 徒歩5分

・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

【演題・講師】 検討中

【主催】 特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

.....

☆その他の行事等

○競争的資金説明会： 1月中旬

○情報誌「バイオテック東海」： 12月発行予定

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆三重大学大学院生物資源学研究科主催オープンラボ「産学官コミュニティシンポ2017」

三重大学大学院生物資源学研究科に所属する教員、院生の日頃行っている農林水産・食品・バイオ・環境分野の研究成果が、シンポジウム、ポスターセッションの2つの形式で紹介されます。今後の大学と企業、地域とのコミュニティ作りに向けた新しい展開が期待されています。

【開催日時】 2017年9月1日（金） 13時～17時30分（受付12時30分～）

【開催場所】 三重大学生物資源学研究科棟（2階大講義室）・環境情報科学館（3階）

【主催】 三重大学大学院生物資源学研究科

【対象者】 関連の企業・団体、一般の方

【実施内容】

- ・シンポジウム：5課題の講演、質疑応答
- ・ポスターセッション：学生・教員による研究紹介
- ・懇親会：参加費3000円（当日会場にて受付）。生協第1食堂 学生のポスター賞表彰

【実施要領】 <http://www.bio.mie-u.ac.jp/edafb3a7076087c9c0f0713878f4e79b.pdf>

【参加申込】 参加費無料。

参加申込と締切 上記の「実施要領」にある「参加申込書」に必要事項をご記入の上、下記のE-mail又はFAXでご連絡下さい。

申込締切 8月23日（水）

担当 生物資源学研究科チーム 総務担当（羽津本）

E-mail：renkei@bio.mie-u.ac.jp Fax：059-231-9634

参加費 無料

☆10年後への中山間地の農業像

（日本作物学会）

日本作物学会は、第244回講演会シンポジウムを下記の通り、岐阜大学で開催します。

【開催日時】 2017年9月14日（木） 13時～17時20分

【開催場所】 岐阜大学 講堂

【実施内容】

- ・第1部 10年後への中山間地域社会・中山間地域農業（3課題の講演）
- ・第2部 地域資源と生きる中山間地域農業（4課題の講演）
- ・第3部 総合討論 パネルディスカッション

【開催案内】 <http://www.cropsociety.jp/meeting/244/symposium.html>

【チラシ】 http://www.cropscience.jp/meeting/244/sympo_poster.pdf

【入場料】 無料

【お問い合わせ先】 岐阜大学応用生物科学部 シンポジウム・オルガナイザー 松井 勤

TEL : 058-293-2967 E-mail : h29gifucropsci@gmail.com

.....

☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」

【開催日時】 平成29年5月～6月及び9月～12月（計7回）

【開催場所】 名古屋大学、豊田森林組合、ポートメッセなごや

【都市の木質化講座2017ポスター】

http://www.nagoya-u.ac.jp/international/upload_images/toshinokisituka2017.pdf

【主催】 名古屋大学大学院生命農学研究科・都市の木質化プロジェクト

【対象者】 林・林産・建築業関係者、行政関係者、一般市民（大学生以上）

【定員】 30～40名

【参加費】 テキスト代 1000円（7回分）、受講料無料（保険料・オプションは別途）

【申込み方法】 上記のポスター（pdf）に書かれています。

【都市の木質化プロジェクト】 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~biomeng/toshimoku/>

【問い合わせ先】 名古屋大学大学院生命農学研究科 生物材料工学研究室

TEL:052-789-4146・4148 FAX:052-789-4147

E-mail: woodismnagoya@gmail.com

お申し込みは、E-mailにてお送り下さい。

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

☆近畿地域マッチングフォーラムの開催（農研機構西日本農業研究センター）

近年、地球温暖化の影響が、高温などによる作物の生育不良や品質低下、生理障害、病害虫の変化など、農業生産の様々な面で表われています。本フォーラムでは、農産物の生産安定に向けて、気象変動に適応するための技術開発事例が紹介されます。

【開催日時】 平成29年9月20日（水） 11時～17時

【開催場所】 京都テルサ 東館 3F大会議室及びD会議室

（京都市南区東九条下殿田町70番地）（TEL: 075-692-3400）

【主催】 農林水産省大臣官房政策課技術政策室、農研機構西日本農業研究センター

【開催内容】

- ・第1部 講演 7課題
- ・第2部 ポスター発表(17)～マッチング（技術相談を含む）
- ・第3部 パネルディスカッション(講演者)

【開催案内】 農研機構の下記URLの開催案内をご覧ください。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/07/076463.html>

【チラシ】 <http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/warc-ivent-20170727a1.pdf>

【参加】 募集定員150名、参加費無料

参加申込：平成29年8月30日（水）までに、上記の開催案内に付いている参加申込書のファイルを取り出してご記入の上、メール又はファックスでお送り下さい。

申込先：E-mail: toybox@ml.affrc.go.jp Mail: FAX: 084-923-5215

.....

☆アグリビジネス創出フェア2017（東京ビッグサイト）

平成29年度のアグリビジネス創出フェア2017は、下記の通り、10月4日～6日に東京ビッグサイトで開催されます。

【開催日時】 平成29年10月4日（水）～6日（金）両日とも10：00～17：00

【開催場所】 東京ビッグサイト 東7ホール（東京都江東区有明3-11-1）

【入場料・出展料】 無料（事前又は当日登録が必要）

【開催規模】 予定参加者数延べ35,000人以上、出展300小間程度（うち一般の出展者210小間程度）

【ホームページ】 <http://agribiz-fair.jp/>

【お問い合わせ】 アグリビジネス創出フェア2017事務局
（一般社団法人日本能率協会 産業振興センター内）

TEL:03-3434-1988 FAX:03-3434-8076 E-mail: abf@jma.or.jp

.....

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆4◆ 平成29年度競争的研究資金等について

☆平成29年度官民連携新技術研究開発事業

（農林水産省農村振興局）

http://www.maff.go.jp/supply/170711_1.html

分野等：

1. 農地の大区画化・汎用化に資する技術
2. 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保

全管理に資する技術

3. 土地改良施設の耐震強化等に資する技術
4. 小水力発電等の農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進に資する技術
5. 農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術

公募期間：平成29年7月11日～8月31日

.....
☆戦略的国際共同研究プログラム 日本－英国（NERC）共同研究課題募集 （JST）

http://www.jst.go.jp/sicoro/announce_uk_NERC1st.html

分野等：海洋観測のための革新的な生物・生物地球化学センサー分野に関する日本と英国の国際共同研究

公募期間：平成29年6月20日～8月24日

.....
☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP） ステージⅢ：NexTEP-タイプ （JST）

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日（第2回締切）
30年3月30日（第3回締切）

.....
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ （JST）

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う、未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日（第2回締切）
30年3月30日（第3回締切）

.....
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ （JST）

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日（第2回締切）

.....
☆平成29年度国際研究開発/コファンド事業/日本—ドイツ研究開発協力事業（NEDO）

http://www.nedo.go.jp/koubo/AT092_100108.html

分野等：NEDOは、平成29年3月に、経済産業省とともにドイツ連邦経済エネルギー省と、日独両国の共同研究開発プロジェクトが、両国の産業競争力強化および国際化促進にとって重要であるとの認識のもと、両国が「コファンド形式」にて、企業間の国際研究開発を支援していくことに合意し、共同声明に調印した。NEDOは、本共同声明に基づき、「インダストリー4.0」や「IoT」の概念を打ち出して世界をリードしているドイツと、日独の企業等による「国際研究開発/コファンド事業」の公募を行う。対象技術分野は、新エネルギー、省エネルギー、スマートコミュニティ、環境、ロボット、機械システム、電子・情報（AI・IoT含む）、材料・ナノテクノロジー等。

公募期間：平成29年6月19日～8月17日

.....
☆平成29年度研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する事業化支援（第2回公募）」（NEDO）

http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100154.html

分野等：ベンチャーエコシステムにおいて重要な役割を果たすベンチャーキャピタル及びシードアクセラレータ等とNEDOが協調し、シード期の研究開発型ベンチャーが必要とする研究開発及び事業化に必要な資金、並びにその活動を支援する。

公募期間：平成29年7月19日～8月21日

.....
☆平成29年度戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）
若手ICT研究者等育成型研究開発（若手研究者枠・中小企業枠）」（総務省）

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/scope/

分野等：ICT分野の研究者として次世代を担う若手人材を育成することや中小企業の斬新な技術を発掘するために、若手研究者又は中小企業の研究者が提案する研究開発課題。

公募期間：平成29年7月5日～10月13日（若手研究者枠）

.....
☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!)（総務省）

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジ

ェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- ① いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- ② G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- ③ 以心伝心ICTサービス基盤
- ④ フレンドリーICTサービス技術
- ⑤ 社会インフラ維持管理サービス技術
- ⑥ レジリエント向上ICTサービス技術
- ⑦ 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合をはかるなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～30年3月30日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆農業・食品情報関係

・農林水産省のホームページに農業技術・研究の見える化サイトが開設されました！

農林水産省は、農業現場における技術的問題の解決に役立てるために、最新の技術や研究成果について、生産者が活用しやすい環境を整備しました。具体的には、これまでホームページ等に分散していた農業技術に関する情報を集約し、一元的に検索可能な「農業技術総合ポータルサイト」を本年4月10日に公開しました。また、多数の農業研究者と研究成果等を検索できる「まるみえアグリ：農業研究見える化システム（仮称）」を公開しました。これらは、スマホ・タブレットでも閲覧できます。

「農業技術総合ポータルサイト」は、下記のURLより御覧下さい。

http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/gijutsu_portal/top.html

新規就農者や新たな作物に挑戦する人が知りたい各品目の基本的な栽培技術の情報のほか、現場が直面している課題解決に役立つ様々な実用化技術やマニュアルなどを知ることができます。

「まるみえアグリ：農業研究見える化システム（仮称）」は、下記URLから御覧下さい。

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/>

最新の研究成果や研究者にアクセスしたい先進農家等は「まるみえアグリ」を利用できません。平成29年4月10日までに収録された研究者と研究成果の数は、それぞれ約3,300名と約28,000件で、今後も充実させる予定となっています。生産者をはじめ、普及指導機関、関連団体・企業等により活用されることが期待されています。

☆稲・麦・大豆関係

- ・変動気象に対応可能な水稻高温傷害早期警戒・栽培支援システムの開発
～水稻の高温障害である白未熟粒の発生を抑える追肥量や、胴割れ被害を回避する刈取適期を知ることのできるシステムを開発～

農研機構農業環境変動研究センターを研究総括者とする共同研究グループは、近年の温暖化傾向の下で問題となっている高温傷害（白未熟粒、胴割れ粒）の対策として、予測した登熟期の気温推移に応じて肥培管理を変更することで傷害を低減させるシステムを開発しました。胴割れ粒については、登熟初期の気温条件と出穂後積算温度、及び登熟後期の葉色（SPAD）値から、「コシヒカリ」の胴割れ発生率を予測する手法を開発しました。そして、高温年において胴割れによる品質低下を抑える適期刈取り支援技術を開発しました。また、穂揃期においてSPAD値が適切な値（コシヒカリでは35）となっていれば、登熟前半が高温になっても基部未熟粒の発生を抑制でき食味の低下も抑えられることを明らかにし、更に、穂揃期のSPAD値が適切な値となるように2回目の穂肥を調整する技術を開発しました。2017年には、本システムの利用を4県、200人程度の協力者に実施していただくことを目指しています。

農林水産省発行「研究紹介2017」掲載記事から抜粋（この冊子は当研究会にございます）

☆野菜関係

- ・加工用ハウレンソウの多収抑草技術の開発による機械収穫生産体系の確立

本研究成果は、農研機構九州沖縄農業研究センターが研究総括を務める共同研究グループによって生み出されました。成果の中身は、中小規模の加工用ハウレンソウ生産において省力・低コスト化を図るために、歩行型小型収穫機を中核とする機械化体系を開発しました。この体系には、歩行型小型収穫機による収穫体系、機械収穫に伴う雑草などの異物混入を低減させる方法、厳寒期の生産量不足や春期の供給過剰を防ぐ、積算温度計算を基とする栽培計画法や栽培技術などが含まれています。この技術により、中小規模生産者が主体となって

いる産地で、省力低コスト化で産地の維持拡大が期待されます。2017年には、機械収穫体系マニュアルの公開、技術講習会などが行われます。

農林水産省発行「研究紹介2017」掲載記事から抜粋（この冊子は当研究会にございます）

☆蒸熱処理により化学農薬の使用を低減し、クリーンなイチゴ苗から始まる防除体系を構築しました！

本研究成果は、農研機構九州沖縄農業研究センターが研究総括を務める共同研究グループによって生み出されました。イチゴの苗は、主要な病害虫よりも耐熱性が高いことを見だし、この差を利用して、苗に大きな障害を与えずに、病害虫だけを死滅させる小型の蒸熱処理防除装置と防除条件を開発・解明しました。更に、蒸熱処理前後の防除体系も開発しマニュアル化しました。開発した蒸熱処理装置は、「苗類病害虫防除装置」として販売され、マニュアルは研究開発した九州沖縄農業研究センターが配布しています（2018年にWeb公開予定）。

農林水産省発行「研究紹介2017」掲載記事から抜粋（この冊子は当研究会にございます）

☆食品関係

・高機能発酵食品開発のための発酵食品セラミドの機能性解明

本研究成果は、佐賀大学が研究総括を務める共同研究グループによって生み出されました。日本食の発酵食品（甘酒、塩麴、濁り酒、味噌、醤油、お酢等）には麴グリコシルセラミドが共通して含まれ、その含量を解明しました。また、グリコシルセラミドが腸内で分解・吸収されて肝臓に運ばれ、PPAR γ を活性化すること、中性脂肪吸収阻害を起し肝臓コレステロールを低下させることを確認しました。麴セラミドの機能性は和食全般の機能性として世界に訴求出来ます。

農林水産省「研究紹介2017」掲載記事から抜粋（この冊子は当研究会にございます）

.....
編集後記

8月に入って、台風5号が紀伊半島に上陸し、北陸に抜けていきました。台風5号は史上3番目に長寿命で、上陸してからの動きも遅く、陸側を通過したので降水量が多くなりました。東海地域では、豊橋市で竜巻が発生し、民家の屋根が飛ばされたり、農業用ガラス室が破損するなどの被害が出ました。三重県の松阪市、桑名市でも帯状の場所で屋根瓦が飛ばされるなどの被害が発生し、竜巻かどうかの調査が行われています。かつては、竜

巻は米国など大陸で発生するものであり、国内では殆ど起こらなかったと記憶していますが、昨今は温暖化の進行で気象変化のエネルギーが大きくなっているのではないかと考えられます。

ところで、最近読んだ本に大江正章著「地域に希望あり ～まち、人・仕事を創る～」(岩波新書、2015年5月発刊)があります。著者は、農・食・環境・自治などについての本を著しているジャーナリストです。2008年には岩波新書から「地域の力 ～食・農・まちづくり～」を出版しています。今回紹介する本は、東日本大震災、福島原発事故、増田氏らの著書「地方消滅 - 東京一極集中が招く人口急減」(中公新書)の出版等、激変する社会環境の変化の下で、新たに書き加えた部分や、その後の地域活性化の動向などを具体的に紹介しており、各地域において様々な取組みが行われているのが分かります。

人口推計学による人口の将来予測は、現在のような政策が続くとすると、ほぼ予測通りに減少するとされています。2050年には、日本の人口は約1億2百万人(現在約1億2千6百万人余)に減少するとともに、東京などの大都会に人口が集中し、農山漁村地域は、ますます高齢化、少子化、過疎化が進むと推測されています。

しかし、本書を読むと、環境的に優れ、住みやすく、仕事を創り出せる魅力ある地域にしていくならば、都会からの若者等の地方への移住が少なからず起こる可能性が示唆されています。著者は、様々な地域での取材を続ける中で、「地域には希望がある」と実感し、その共通点として、①企業誘致、公共事業依存路線には未来はなく、環境を大切に、住民主体の持続可能な地域づくりが明確に意識されていること、②身の丈に合った着実な進展、小さな成功の積み上げが大切にされていること、③地元根差したNPOなどの仕組みを設け、役割を分担し、地域づくりを持続させていること、④農山村の価値や知恵に学ぶ都市生活者やボランティアなどの応援団がいて、交流から定住へと進むケースがみられること、⑤農山村と都市は共存すべきであり、都市住民が人間らしく生きるのに農の存在が不可欠という認識があることを述べています。本書では、これらのことが具体的事例で紹介されていますので、地域活性化に関心を持つ方にはたいへん参考になると思われます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研 ～ メールマガジン 第153号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成29年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
 - ☆平成29年度第2回セミナーの開催について (10月17日)
 - ☆アグリビジネス創出フェア2017 in 東海 (11月7-8日)
 - ☆平成29年度第3回セミナー (11月21日)
 - ☆その他の行事等
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
 - ☆10年後への中山間地の農業像 (日本作物学会第244回講演会) (9月14日)
 - ☆農研機構 果樹茶業研究部門 金谷茶業研究拠点一般公開 (9月20日)
 - ☆岐阜大学応用生物科学部公開講演会 パンシンポジウム2017 (9月26日)
 - ☆平成29年度野菜花き課題別研究会
 - 「野菜のゲノム情報を活用した育種選抜の現状と課題」(10月25日～26日)
 - ☆第19回全国山羊サミット in ぎふ (11月4日～5日)
 - ☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」(5月～12月、計7回)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
 - ☆近畿地域マッチングフォーラムの開催 (9月20日)
 - ☆アグリビジネス創出フェア2017 (東京ビッグサイト) (10月4～6日)
 - ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
 - ☆「知」の集積と活用の中による研究開発モデル事業 (平成29年度第2次公募)
 - (農研機構・生物系特定産業技術研究支援センター)
 - ☆平成30年度科学研究費助成事業 (文部科学省)
 - ☆平成30年度科学研究費助成事業 ((独)日本学術振興会)
 - ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージⅢ: NexTEP-タイプ
 - (JST)
 - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ
 - (JST)
 - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
 - ☆平成29年度戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE)
 - 若手ICT研究者等育成型研究開発 (若手研究者枠・中小企業枠) (総務省)

- ☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
- ?民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

◆1◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業

☆平成29年度第2回セミナーの開催について

【目的】農林水産・食品産業分野の先進的研究・利用事例、研究開発を取りまく情勢等について理解を深める。また、企業・団体、大学、試験研究機関等の産学官の参加者が情報交流し、東海地域における研究開発とその実用化促進に資する。

【開催日時】平成29年10月17日(火) 13:30～17:00

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター) 13階会議室(1307 1308)
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

- ・JR名古屋駅桜通口から ミッドランドスクエア方面 徒歩5分
- ・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

【演題・講師】

第1会場(1308会議室)

○水産部会 13:30～14:30

「アコヤガイ外套膜から分離した貝殻形成細胞の移植による真珠生産法の開発」

国立研究開発法人水産研究教育機構 増養殖研究所 養殖システム研究センター
研究開発専門員 淡路 雅彦 氏

○畜産部会 14:30～15:30

「養豚農家で使える受精卵移植技術 ～伝染病侵入の危険が少ない種豚導入に期待～」

愛知県農業総合試験場畜産研究部主任研究員 田島 茂行 氏

○食品部会 15:40～16:40

「食品製造・加工におけるHACCPと危害要因」

一般社団法人食品品質プロフェッショナルズ 水野 俊秋 氏

第2会場(1307会議室)

○トピックス 13:30～14:30

「機能性食品と食品用途特許を活用した健康食品の6次産業化」

SK特許業務法人 代表社員 奥野 彰彦 氏

○林産部会 14:30～15:30

「CLT(直交集成材)利用の現状と可能性、普及への課題」

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所

複合材料研究領域長 洪沢 龍也 氏

○作物部会 15:40～16:40

「接ぎ木技術の可能性と展望」

名古屋大学大学院生命農学研究科助教 野田口 理孝 氏

【技術相談】「技術相談」のある方は当日受付で、案件名、所属、氏名をご記入したものを提出していただきます。当日は時間がございませんので、後日、十分な時間を取って対応させていただきます。

【情報交流会】17:00～18:30（第2会場1307にて開催） 会費2,500円

【参加費】講演会は参加費無料

【参集範囲】NPO法人東海生研会員、農林水産・食品産業関連企業、農業団体、食品関係団体、建築業関連企業・団体、大学・高校等教育機関、国立研究開発法人、独立行政法人、公的試験研究機関、行政機関、その他内容に関心を有する者

【主催】特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

【後援】名古屋大学大学院生命農学研究科、農研機構中央農業研究センター、公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

【開催要領】<http://www.biotech-tokai.jp/archives/1602>

【申込み】上記開催要領のURLからセミナー申込書を取り出し、必要事項をご記入の上、下記のE-mail、又はFAXでお送り下さい。

E-mail : bio-npo2@y4.dion.ne.jp TEL&FAX : 052-789-4586

☆アグリビジネス創出フェア2017 in 東海（開催予告）

【目的】

「アグリビジネス創出フェア 2017 in 東海」は、農林水産・食品産業分野における産学官連携によるマッチング促進を目的として、農林水産省の実施する「知」の集積による産学連携推進事業のうち知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業の一環として実施します。

本年度は、あいち産業科学技術総合センター・食品工業技術センターおよびNPO法人近畿アグリハイテクと共催し、講演会・セミナーも開催します。

【開催日時】平成29年11月7日（火）10:00～17:00

11月8日（水）10:00～17:00

【開催場所】名古屋大学 野依記念学術交流館

（名古屋市千種区不老町名古屋大学）

地下鉄名城線 名古屋大学 2番出口より徒歩4分

【内容】

（1）開会式 11月7日（火）10:00～10:20

（2）基調講演 7日（火）10:20～11:20

講師：農林水産省 農林水産技術会議事務局会議 研究総務官 菱沼義久 氏

講演名：「生物機能の高度活用による新たな農業と新産業の創出」

(3) 成果発表 7日(火) 午前、午後

大学・公設試・企業・高校

(4) 特別講演 8日(水) 13:00~14:00

講師：愛知学院大学教授 大澤 俊彦 氏

講演名：「農林水産物・食品の機能性と健康長寿社会」

(5) あいち産科技セ・食品工業技術センター セミナー 8日(水) 14:00~15:30

(6) パネル等の展示 7日(火) 10:00~8日(水) 17:00

大学・公設試・高校・企業等研究成果、6次産業化新製品等の発表

(7) ポスターセッション 7日(火) 午後、8日(水) 午後

(8) 相談コーナー開設 7日(火) 16:00~17:00

農林水産省産学連携支援コーディネーターが対応

【出展募集要領】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/1469>

【参集範囲】 アグリビジネス創出フェアの展示・発表等にご関心のある方はどなたでもご参加ください。異分野のご専門の皆様もぜひご参加ください。

【主催】 特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

【共催】 NPO法人近畿アグリハイテク、あいち産科技セ・食品工業技術センター

【後援】 名古屋大学大学院生命農学研究科、農研機構中央農業研究センター

公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

【出展】 研究機関・企業・団体等：70ブース(予定)

【問い合わせ先】 特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 事務局(大石、道村)

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2@y4.dion.ne.jp (道村)

☆平成29年度第3回セミナー

～ICT、IoT等を活用したスマート農業の展開と課題～

【開催日時】 平成29年11月21日(火) 13:30~17:00

【開催場所】 ウィンクあいち(愛知県産業労働センター) 10階会議室(1008会議室)
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

・JR名古屋駅桜通口から ミッドランドスクエア方面 徒歩5分

・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

【内容】

1. あいさつ：本セミナーの概要説明 13:30~13:40

2. 講演

1) 衛星・ドローンによるリモートセンシングのスマート農業への活用(13:40~14:25)

農研機構 農業環境変動研究センター 井上 吉雄 氏

休憩 (14:25~14:35)

2) 施設栽培における環境制御関係

(1) 環境モニタリングシステム「あぐりログ」による産地内情報共有

(14:35~15:05)

愛知県農業総合試験場園芸研究部次世代施設野菜研究室 番 喜宏 氏

(2) プロファームを活用した環境モニタリングと環境制御 (15:05~15:35)

株式会社デンソー 新事業推進部 木股 光善 氏

(3) 生産管理における「食・農クラウドAkisai」の活用 (15:35~16:05)

富士通株式会社 西日本営業本部東海支社 公共営業部 上田 太郎 氏

休憩 (16:05~16:15)

3) 畦畔除草ロボットの開発 (16:15~17:00)

農研機構 西日本農業研究センター 傾斜地園芸研究領域 中元 陽一 氏

3. 情報交流会 (17:15~18:30)

参加費 2,500円 場所 1008会議室

【主催】特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

【参加申込等】講演会は参加費無料。

.....

☆その他の行事等

○競争的資金説明会: 1月中旬

○情報誌「バイオテック東海」: 12月発行予定

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆10年後への中山間地の農業像 (日本作物学会)

日本作物学会は、第244回講演会シンポジウムを下記の通り、岐阜大学で開催します。

【開催日時】2017年9月14日(木) 13時~17時20分

【開催場所】岐阜大学 講堂

【実施内容】

- ・第1部 10年後への中山間地域社会・中山間地域農業(3課題の講演)
- ・第2部 地域資源と生きる中山間地域農業(4課題の講演)
- ・第3部 総合討論 パネルディスカッション

【開催案内】<http://www.cropscience.jp/meeting/244/symposium.html>

【チラシ】http://www.cropscience.jp/meeting/244/sympo_poster.pdf

【入場料】無料

【お問い合わせ先】岐阜大学応用生物科学部 シンポジウム・オルガナイザー 松井 勤

TEL: 058-293-2967 E-mail: h29gifucropsci@gmail.com

.....
☆農研機構 果樹茶業研究部門 金谷茶業研究拠点一般公開

【開催日時】平成29年9月20日（水）9：30～15：00

【開催場所】農研機構 果樹茶業研究部門 金谷茶業研究拠点
（静岡県島田市金谷猪土居2769）

【開催案内】<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/07/076191.html>

【参加費】無料、事前申込不要（但し、団体見学の場合は事前に連絡）。

【お問い合わせ先】農研機構 果樹茶業研究部門 金谷茶業研究拠点

TEL：547-45-4101 E-mail：cha-koukai@ml.affrc.go.jp

.....
☆岐阜大学応用生物科学部公開講演会 パンシンポジウム2017

【開催日時】平成29年9月26日（火）13：00～17：35

【開催場所】岐阜大学サテライトキャンパス
（JR岐阜駅前岐阜スカイウイング37・東棟4階）

【開催案内】<http://www.abios.gifu-u.ac.jp/lifescience/symposium2017.html>

【ポスター】http://www.abios.gifu-u.ac.jp/lifescience/file/sympo2017_3.pdf

【参加費】無料

【申込み】9月25日（月）までに、申し込みフォーム（下記のURL）からお申込みください。URL：<https://yabets.heteml.jp/form/Sympo2017.html>

※氏名と連絡先（メールアドレス、電話番号など）をお知らせいただき、下記の申し込み先宛に直接送信いただいても結構です。

※当日参加も歓迎

【お申込み先・お問い合わせ先】

岐阜大学応用生物科学部応用生命科学課程 西津貴久

電話：058-293-2888（直通）

E-mail：fpel.gifu@gmail.com

.....
☆平成29年度野菜花き課題別研究会

「野菜のゲノム情報を活用した育種選抜の現状と課題」

【開催日時】平成29年10月25日13：00～26日12：00

【開催場所】アスト津 4階アストホール
（三重県津市羽所町700） TEL：059-222-2525

【開催案内】<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/07/076214.html>

【参集範囲】国立研究開発法人および公立試験研究機関 野菜研究担当者
日本種苗協会 関係者
国および地方自治体 野菜行政・普及担当者

その他、野菜花き研究部門長が認めた者

【参加費】 無料、定員250名（但し、希望者多数の場合は先着順）

【情報交換会】 会費 6,000円、10月13日までに下記により送金して下さい。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/07/076214.html>

【お問い合わせ先】 野菜花き課題別研究会事務局

E-mail:kadaibetsu2017@ml.affrc.go.jp

・研究会全般について

野菜育種・ゲノム研究領域 ゲノム解析ユニット(布目)

電話：050-3533-4615 ファックス：059-268-1339

・研究会参加申し込みについて

企画管理部企画連携室交流チーム(野田・山本)

電話：029-838-6599・6603

・情報交換会について

企画管理部安濃企画連携室企画連携チーム(真柄)

電話：050-3533-3828

.....

☆第19回全国山羊サミット in ぎふ

【開催日時】 1日目：平成29年11月4日（土）9時～17時 交流会18時～20時

2日目：11月5日（日）10時～12時

【開催場所】 1日目：シティホテル美濃加茂（岐阜県美濃加茂市太田町2565-1）

2日目：日本昭和村（岐阜県美濃加茂市山之上町2292番地1）

【開催案内】 <http://japangoat.web.fc2.com/news.html#summit2017>

【内容】 1日目

基調講演

I. 美濃加茂市における山羊さん除草およびその関連事業の取組み（仮）

有限会社 フルージャック代表 渡辺祥二 氏

II. 学校における動物ふれあい教育の意義と取組み（仮）

元美濃加茂市立蜂屋小学校校長 井戸千恵子 氏

一般発表

I. 山羊の飼育管理と衛生、II. 山羊による地域活性、

III. 一般講演（募集演題）

2日目

I. 人工授精・周産期管理、II. 防疫管理、

III. 山羊によるキャラメルづくり（要予約）

【主催】 「第19回全国山羊サミット in ぎふ」実行委員会及び全国山羊ネットワーク

【参加費】 2,000円／人（講演要旨代、会場費等）、交流会 5,000円／人

昼食 700円／人、 定員300人 交流会は定員200人

【申込み】 申込期限 9月30日、上記の「開催案内」を開き、申込書に記入し下記の「申込先 お問い合わせ先」にお送り下さい。

【申込先 お問い合わせ先】

全国山羊サミット in ぎふ実行委員会事務局 八代田真人

E-mail: yagi.summit@gmail.com

携帯電話：090-5101-9591 FAX：058-293-2867

.....

☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」

【開催日時】平成29年5月～6月及び9月～12月（計7回）

【開催場所】名古屋大学、豊田森林組合、ポートメッセなごや

【都市の木質化講座2017ポスター】

http://www.nagoya-u.ac.jp/international/upload_images/toshinokisituka2017.pdf

【主催】名古屋大学大学院生命農学研究科・都市の木質化プロジェクト

【対象者】林・林産・建築業関係者、行政関係者、一般市民（大学生以上）

【定員】30～40名

【参加費】テキスト代 1000円（7回分）、受講料無料（保険料・オプションは別途）

【申込み方法】上記のポスター（pdf）に書かれています。

【都市の木質化プロジェクト】<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~biomeng/toshimoku/>

【問い合わせ先】名古屋大学大学院生命農学研究科 生物材料工学研究室

TEL：052-789-4146・4148 FAX：052-789-4147

E-mail: woodismnagoya@gmail.com

お申し込みは、E-mailにてお送り下さい。

◆3◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

☆近畿地域マッチングフォーラムの開催（農研機構西日本農業研究センター）

近年、地球温暖化の影響が、高温などによる作物の生育不良や品質低下、生理障害、病害虫の変化など、農業生産の様々な面で現れています。本フォーラムでは、農産物の生産安定に向けて、気象変動に適応するための技術開発事例が紹介されます。

【開催日時】平成29年9月20日（水）11時～17時

【開催場所】「京都テルサ 東館」3F大会議室及びD会議室

（京都市南区東九条下殿田町70番地）（TEL：075-692-3400）

【主催】農林水産省大臣官房政策課技術政策室、農研機構西日本農業研究センター

【開催内容】

- ・第1部 講演 7課題
- ・第2部 ポスター発表(17)～マッチング（技術相談を含む）

・第3部 パネルディスカッション(講演者)

【開催案内】 農研機構の下記URLの開催案内をご覧ください。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/07/076463.html>

【チラシ】 <http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/warc-ivent-20170727a1.pdf>

【参加】 募集定員150名、参加費無料

参加申込：平成29年8月30日（水）までに、上記の開催案内に付いている参加申込書のファイルを取り出してご記入の上、メール又はファックスでお送り下さい。

申込先：E-mail: toybox@ml.affrc.go.jp FAX: 084-923-5215

.....

☆アグリビジネス創出フェア2017（東京ビッグサイト）

平成29年度のアグリビジネス創出フェア2017は、下記の通り、10月4日～6日に東京ビッグサイトで開催されます。

【開催日時】 平成29年10月4日（水）～6日（金）両日とも10：00～17：00

【開催場所】 東京ビッグサイト 東7ホール（東京都江東区有明3-11-1）

【入場料・出展料】 無料（事前又は当日登録が必要）

【開催規模】 予定参加者数延べ35,000人以上、出展300小間程度（うち一般の出展者210小間程度）

【ホームページ】 <http://agribiz-fair.jp/>

【お問い合わせ】 アグリビジネス創出フェア2017事務局
（一般社団法人日本能率協会 産業振興センター内）

TEL:03-3434-1988 FAX:03-3434-8076 E-mail: abf@jma.or.jp

.....

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆4◆ 平成29年度競争的研究資金等について

☆「知」の集積と活用場による研究開発モデル事業（平成29年度第2次公募）
（農研機構・生物系特定産業技術研究支援センター）

http://www.naro.affrc.go.jp/brain/knowledge/koubo/h29_2nd/index.html

分野等：「知」の集積と活用の中で行われる新たなオープンイノベーションによる研究開発の取組を支援するため、『知』の集積と活用による革新的技術創造促進事業」として、民間企業等との連携を促すマッチングファンド方式による新たな支援の仕組みを導入した研究開発について、公募により研究を委託する。

公募期間：平成29年8月16日～9月15日

.....

☆平成30年度科学研究費助成事業 ー科研費ー (文部科学省)

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/boshu/1394559.htm

分野等：新学術領域研究、特別研究促進費

公募期間：平成29年9月1日～11月8日

.....

☆平成30年度科学研究費助成事業 ー科研費ー ((独) 日本学術振興会)

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/03_keikaku/download.html

分野等：特別推進研究、基盤研究、挑戦的研究、若手研究

公募期間：平成29年9月1日～11月8日

.....

☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージⅢ：NexTEP-タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日 (第2回締切)
30年3月30日 (第3回締切)

.....

☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う、未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日 (第2回締切)
30年3月30日 (第3回締切)

.....

☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日（第2回締切）
30年3月30日（第3回締切）

.....

☆平成29年度戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）（総務省）
若手ICT研究者等育成型研究開発（若手研究者枠・中小企業枠）」

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/scope/

分野等：ICT分野の研究者として次世代を担う若手人材を育成することや中小企業の斬新な技術を発掘するために、若手研究者又は中小企業の研究者が提案する研究開発課題。

公募期間：平成29年7月5日～10月13日（若手研究者枠）

.....

☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!)（総務省）

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- ① いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- ② G空間高度利活用基盤技術（Tokyo 3D Mapping）
- ③ 以心伝心ICTサービス基盤
- ④ フレンドリーICTサービス技術
- ⑤ 社会インフラ維持管理サービス技術
- ⑥ レジリエント向上ICTサービス技術
- ⑦ 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合をはかるなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～30年3月30日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆畜産関係

- ・開放型畜舎と堆肥舎を対象としたネット利用による脱臭技術

本研究成果は、群馬県畜産試験場が研究総括を務める共同研究グループによって生み出されました。畜産経営に起因する苦情の過半数は悪臭に関連するものとなっています。畜産経営の大部分を占める開放型施設では、臭気の拡散を防止する有効な技術がありませんでした。そこで、本研究では、既存の開放型施設において簡易かつ低コストで導入可能な臭気対策技術として、ネットを用いた臭気対策技術の開発を目指しました。

室内実験では、10mmマス目、30cm四方のポリエステルネットを使用して、クエン酸水溶液で湿潤したネットを張ったところ、20ppmのアンモニアを90%除去できました。風洞実験では、5mmマス目、幅2m、高さ1.5mのネットで20ppmのアンモニアを約40%除去できました。また、畜産施設の開口部に展張したネットをクエン酸水溶液で均一に湿潤させられる親水化加工を施した専用ネット、およびネットに均一にクエン酸水溶液を散水する散水装置を開発しました。上記の装置を用いて、試験用堆肥舎において牛糞の切り返し時に発生するアンモニアを除去できることを確認しました（施設内濃度25ppmに対し、ネットの外側では4ppmに低下）。3～5年後には、開発技術を商品化し、畜産農家への普及を図る予定です。

農林水産省「研究紹介2017」掲載記事から抜粋（この冊子は当研究会にもございます）
農林水産技術会議事務局 プロジェクト計画：

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/26077c_gaiyou.p](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/26077c_gaiyou.pdf)

[df](#)

☆林業・林産関係

- ・薬用系機能性樹木の生産効率化手法の開発

本研究成果は、国立研究開発法人森林総合研究所が研究総括を務める共同研究グループによって生み出されました。国内に自生し、生薬原料となる薬用樹木であるカギカズラ、キハダ等を対象に、優良個体の選抜、増殖、栽培による医薬品原材料の生産効率化のための手法の開発を行いました。

カギカズラでは、個体収集と保存を行い、69個体で生薬原料としてのアルカロイド含有率（リンコフィリン及びヒルスチン）が日本局方基準を満たすことを明らかにしました。また、キハダでは、成長が早く、ベルベリン含有率が日本局方基準を満たす11個体を選抜しました。更に、カギカズラの組織培養及び挿し木による優良個体のクローン化のための技術開発を行いました。将来的に、実需者ニーズを満たす多様な品種を提供し、カギカズラとキハダを基原とする生薬の国内栽培の拡大に寄与していきます。

農林水産省「研究紹介2017」掲載記事から抜粋（この冊子は当研究会にもございます）
森林総合研究所 研究成果：国産の「カギカズラ」で漢方薬を作る ―組織培養で増やし、
枝の薬用成分の濃度を探る―

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/research/documents/p68-69.pdf>

[pdf](#)

農林水産技術会議事務局 プロジェクト計画：

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/26063b_gai](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/26063b_gaiyou.pdf)

[you.pdf](#)

・・

編集後記

先月号から今月号までにあった出来事としては、スポーツでは、サッカー・ワールドカップ・アジア予選で、これまでアジア予選で7回戦って1度も勝ったことのないオーストラリアに2-0で見事勝利し、また、柔道、レスリング等の世界選手権で日本選手がめざましい活躍をして金メダルを多数取り、国民は拍手喝采し、平和を感じました。一方、北朝鮮が大陸間弾道ミサイルを発射し、日本上空を飛び越して太平洋に落下し、また、山容が変わるほどの核爆発実験を行い、日本国内ではJ-アラートが広域に鳴り、避難が呼びかけられるなど、緊迫の度合いが強まっています。事態がエスカレートして、万が一にも、偶発的にでも戦争状態に陥ることのないように冷静に対応していただきたいものです。

ところで、最近読んだ本に河野博子著「里地里山エネルギー ～自立分散への挑戦～」(中公新書ラクレ、2017年1月発刊)があります。著者は、新聞記者として、全国各地取材し、再生可能エネルギーに関する新聞記事を書いてきました。しかし、様々な会合などで、再生エネルギーに対する否定的な考えやネガティブな評価を聞かされることが多く、このことが、本書を書く動機となったと述べています。

本書では、まず、再生可能エネルギーの導入・拡大をめぐる日本や世界の状況について述べています。IEA(国際エネルギー機関)によると、2000年から2014年にかけての再生可能エネルギーへの世界の投資額は2.5兆ドルにのぼり、化石燃料による火力発電と原子力発電を合わせた発電所への投資額を上回り、設備容量で1000GWの新たな再生可能エネルギーによる発電設備が生まれたとしています。また、今後2040年までの見通しでは、世界の総発電量の3分の1が再生可能エネルギーによるものとなると推計され、再生可能エネルギーによる発電設備への投資は2040年時点で7兆ドルにのぼり、あらゆる発電所へのすべての投資の約60%を占めるとされています。日本政府も、IEAなどの国際機関と同様に、再生可能エネルギーは適切な政策を行うことにより、コスト面でも他の電源に十分伍していけると見ているようです。また、地球温暖化防止のための温室効果ガスの排出削減策では特に電力部門からの排出削減の重要性(世界のCO2排出量の40%以上が電力部門から排出されている)、および再生可能エネルギーの安全保障策としての重要性などについても述べています。

更に、本書では、地域における再生エネルギーの取組みとして5つの地域の事例について紹介し、スマート防災エコタウンと新電力、風力発電、蓄電設備のある太陽光発電、バイオマス利用、小水力発電などを取り上げています。緊急時に、あるいは、災害対策としてライフラインが途絶した状況下での自立分散型の再生可能エネルギーシステムの重要性、地産地消の再生可能エネルギー利用による地域における雇用確保、売電等による利益を地域に還元して地域活性化に役立てる試みなど、様々な動きが生き生きと述べられています。このような取組みは、地域が一丸となって進める必要があります。また、企業にとっては、停電時や災害時の対策として蓄電、発電、再生エネルギー利用等をリスク管理の一環として考えていく必要があります。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

U R L <http://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研 ～ メールマガジン 第154号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成29年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
 - ☆平成29年度第2回セミナーの開催について (10月17日)
 - ☆アグリビジネス創出フェア2017 in 東海 (11月7-8日)
 - ☆平成29年度第3回セミナー (11月21日)
 - ☆その他の行事等
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
 - ☆岐阜大学 産学連携フェア2017 (10月20日)
 - ☆静岡大学 第3回グリーンサイエンスカフェin浜松 (10月21日)
 - ☆平成29年度野菜花き課題別研究会
「野菜のゲノム情報を活用した育種選抜の現状と課題」(10月25日～26日)
 - ☆みえリーディング産業展2017 (10月27日～28日)
 - ☆岐阜大学フォーラム「環境ユニバーシティーフォーラム」 (11月1日)
 - ☆愛知県農業総合試験場公開デー2017 (11月3日)
 - ☆第19回全国山羊サミット in ぎふ (11月4日～5日)
 - ☆「三重大学と地元企業」との連携セミナー (11月7日)
 - ☆東海地域マッチングフォーラム (11月27日)
 - ☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」(5月～12月、計7回)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
 - ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
 - ☆平成30年度科学研究費助成事業 (文部科学省)
 - ☆平成30年度科学研究費助成事業 ((独)日本学術振興会)
 - ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージⅢ: NexTEP-タイプ (JST)
 - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)
 - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
 - ☆平成29年度戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE)
 - 若手ICT研究者等育成型研究開発 (若手研究者枠・中小企業枠) (総務省)

- ☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
- ?民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

◆1◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業

☆平成29年度第2回セミナーの開催について

【目的】農林水産・食品産業分野の先進的研究・利用事例、研究開発を取りまく情勢等について理解を深める。また、企業・団体、大学、試験研究機関等の産学官の参加者が情報交流し、東海地域における研究開発とその実用化促進に資する。

【開催日時】平成29年10月17日(火) 13:30～17:00

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター)13階会議室(1307 1308)
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

- ・JR名古屋駅桜通口から ミッドランドスクエア方面 徒歩5分
- ・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

【演題・講師】

第1会場(1308会議室)

○水産部会 13:30～14:30

「アコヤガイ外套膜から分離した貝殻形成細胞の移植による真珠生産法の開発」

国立研究開発法人水産研究教育機構 増養殖研究所 養殖システム研究センター
研究開発専門員 淡路 雅彦 氏

○畜産部会 14:30～15:30

「養豚農家で使える受精卵移植技術 ～伝染病侵入の危険が少ない種豚導入に期待～」
愛知県農業総合試験場畜産研究部主任研究員 田島 茂行 氏

○食品部会 15:40～16:40

「食品製造・加工におけるHACCPと危害要因」

一般社団法人食品品質プロフェッショナルズ 水野 俊秋 氏

第2会場(1307会議室)

○トピックス 13:30～14:30

「機能性食品と食品用途特許を活用した健康食品の6次産業化」

SK特許業務法人 代表社員 奥野 彰彦 氏

○林産部会 14:30～15:30

「CLT(直交集成材)利用の現状と可能性、普及への課題」

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所

複合材料研究領域長 渋沢 龍也 氏

○作物部会 15:40～16:40

「接ぎ木技術の可能性と展望」

名古屋大学大学院生命農学研究科助教 野田口 理孝 氏

【技術相談】「技術相談」のある方は当日受付で、案件名、所属、氏名をご記入したものを提出していただきます。当日は時間がございませんので、後日、十分な時間を取って対応させていただきます。

【情報交流会】17:00～18:30（第2会場1307にて開催） 会費2,500円

【参加費】講演会は参加費無料

【参集範囲】NPO法人東海生研会員、農林水産・食品産業関連企業、農業団体、食品関係団体、建築業関連企業・団体、大学・高校等教育機関、国立研究開発法人、独立行政法人、公的試験研究機関、行政機関、その他内容に関心を有する者

【主催】特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

【後援】名古屋大学大学院生命農学研究科、農研機構中央農業研究センター、公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

【開催要領】<http://www.biotech-tokai.jp/archives/1602>

【申込み】上記開催要領のURLからセミナー申込書を取り出し、必要事項をご記入の上、下記のE-mail、又はFAXでお送り下さい。

E-mail : bio-npo2@y4.dion.ne.jp TEL&FAX : 052-789-4586

.....

☆アグリビジネス創出フェア2017 in 東海

【目的】

「アグリビジネス創出フェア 2017 in 東海」は、農林水産・食品産業分野における産学官連携によるマッチング促進を目的として、農林水産省の実施する「知」の集積による産学連携推進事業のうち知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業の一環として実施します。

本年度は、あいち産業科学技術総合センター・食品工業技術センターおよびNPO法人近畿アグリハイテクと共催し、講演会・セミナーも開催します。

【開催日時】平成29年11月7日（火）10:00～17:00

11月8日（水）10:00～17:00

【開催場所】名古屋大学 野依記念学術交流館

（名古屋市千種区不老町名古屋大学）

地下鉄名城線 名古屋大学 2番出口より徒歩4分

【内容】

（1）開会式 11月7日（火）10:00～10:20

（2）基調講演 7日（火）10:20～11:20

講師：農林水産省 農林水産技術会議事務局会議 研究総務官 菱沼義久 氏

講演名：「生物機能の高度活用による新たな農業と新産業の創出」

(3) 成果発表 7日(火) 午前、午後

大学・公設試・企業・高校

(4) 特別講演 8日(水) 13:00~14:00

講師：愛知学院大学教授 大澤 俊彦 氏

講演名：「農林水産物・食品の機能性と健康長寿社会」

(5) あいち産科技セ・食品工業技術センター セミナー 8日(水) 14:00~15:30

重点研究プロジェクト成果活用セミナー

- ・MALDI微生物同定法
- ・全自動迅速微生物検出装置
- ・近赤外食品異物検査装置
- ・残留農薬微量マルチ定量

(6) パネル等の展示 7日(火) 10:00~8日(水) 17:00

大学・公設試・高校・企業等研究成果、6次産業化新製品等の発表

(7) ポスターセッション 7日(火) 午後、8日(水) 午後

(8) 相談コーナー開設 7日(火) 16:00~17:00

農林水産省産学連携支援コーディネーターが対応

【出展募集要領】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/1469>

【参集範囲】 アグリビジネス創出フェアの展示・発表等にご関心のある方はどなたでもご参加ください。異分野のご専門の皆様もぜひご参加ください。

【主催】 特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

【共催】 NPO法人近畿アグリハイテク、あいち産科技セ・食品工業技術センター

【後援】 名古屋大学大学院生命農学研究科、農研機構中央農業研究センター
公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

【出展】 研究機関・企業・団体等：70ブース(予定)

【問い合わせ先】 特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 事務局(大石、道村)

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2@y4.dion.ne.jp (道村)

.....

☆平成29年度第3回セミナー

～ICT、IoT等を活用したスマート農業の展開と課題～

【開催日時】 平成29年11月21日(火) 13:30~17:00

【開催場所】 AP名古屋. 名駅 L会議室 IMAIビル7階 (会場を変更しました)

(名古屋市中村区名駅4丁目10-25)

アクセス：JR名古屋駅桜通口から 下車5分

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/1663>

1. あいさつ：本セミナーの概要説明 13:30～13:40
2. 講演
 - 1) 衛星・ドローンによるリモートセンシングのスマート農業への活用(13:40～14:25)
農研機構 農業環境変動研究センター 井上 吉雄 氏
休憩 (14:25～14:35)
 - 2) 施設栽培における環境制御関係
 - (1) 環境モニタリングシステム「あぐりログ」による産地内情報共有
(14:35～15:05)
愛知県農業総合試験場園芸研究部次世代施設野菜研究室 番 喜宏 氏
 - (2) プロファームを活用した環境モニタリングと環境制御 (15:05～15:35)
株式会社デンソー 新事業推進部 木股 光善 氏
 - (3) 生産管理における「食・農クラウドAkisai」の活用 (15:35～16:05)
富士通株式会社 西日本営業本部東海支社 公共営業部 上田 太郎 氏
休憩 (16:05～16:15)
 - 3) 畦畔除草ロボットの開発 (16:15～17:00)
農研機構 西日本農業研究センター 傾斜地園芸研究領域 中元 陽一 氏
3. 情報交流会 (17:15～18:30)

参加費 2,500円 場所 1008会議室

【主催】特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

【参加申込等】講演会は参加費無料。

☆その他の行事等

- 競争的資金説明会： 1月中旬
- 情報誌「バイオテック東海」： 12月発行予定

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆岐阜大学 産学連携フェア2017

【開催日時】平成29年10月20日(金) 13:00～19:00

【開催場所】岐阜大学サテライトキャンパス

(岐阜市吉野町6丁目31番地 岐阜スカイウイング37 東棟4階)

【内容】

- (1) 技術シーズ説明会
- (2) 岐阜大学地域交流協力会「秋の特別講演会」
- (3) パネル展示と産学官交流会

【開催案内】<https://www.gifu-u.ac.jp/news/event/2017/09/entry27-5423.html>

【チラシ】 https://www.gifu-u.ac.jp/news/event/35b8084f5af3ef012aa5994f89641e27_1.pdf

.....
☆静岡大学 第3回グリーンサイエンスカフェin浜松

【開催日時】平成29年10月21日(土) 14:00~15:30

【開催場所】浜松科学館

【内容】

「スーパーコシヒカリを開発するための次世代DNAシーケンサーによる遺伝子探索とゲノム編集」 講師：富田 因則(静岡大学グリーン科学技術研究所 教授)

【開催案内】 <http://www.shizuoka.ac.jp/event/detail.html?CN=4151>

【参加】無料、事前申し込み制

.....
☆平成29年度野菜花き課題別研究会

「野菜のゲノム情報を活用した育種選抜の現状と課題」

【開催日時】平成29年10月25日13:00~26日12:00

【開催場所】アスト津 4階アストホール

(三重県津市羽所町700) TEL: 059-222-2525

【開催案内】 <http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/07/076214.html>

【参集範囲】国立研究開発法人および公立試験研究機関 野菜研究担当者

日本種苗協会 関係者

国および地方自治体 野菜行政・普及担当者

その他、野菜花き研究部門長が認めた者

【参加費】無料、定員250名(但し、希望者多数の場合は先着順)

【情報交換会】会費 6,000円、10月13日までに下記により送金して下さい。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/07/076214.html>

【お問い合わせ先】野菜花き課題別研究会事務局

E-mail:kadaibetsu2017@ml.affrc.go.jp

・研究会全般について

野菜育種・ゲノム研究領域 ゲノム解析ユニット(布目)

電話:050-3533-4615 ファックス:059-268-1339

・研究会参加申し込みについて

企画管理部企画連携室交流チーム(野田・山本)

電話:029-838-6599・6603

・情報交換会について

企画管理部安濃企画連携室企画連携チーム(真柄)

電話:050-3533-3828

☆みえリーディング産業展2017

三重県内最大級の展示会

【開催日時】平成29年10月27日（金）～28日（土）
10:00～17:00 10:00～16:00

【開催場所】四日市ドーム（三重県四日市市大字羽津甲5169）
近鉄・JR四日市駅から無料シャトルバス運行

【対象】一般の方

【入場料】無料

【詳しい資料（HP）】<http://www.pref.mie.lg.jp/sshuseki/hp/leading/>

【みえ産学官研究交流フォーラム2017】「みえリーディング産業展2017」の中で開催
<http://www.mie-u.ac.jp/topics/events/2017/09/2017-9.html>

.....

☆岐阜大学フォーラム「環境ユニバーシティフォーラム」

【開催日時】平成29年11月1日（水）13:30～15:00

【開催場所】岐阜大学 全学共通教育講義棟105番講義室

【講演】13:30～14:30

『森は岐阜の宝物』 この宝を未来に引き継ぐために
岐阜県立森林文化アカデミー教授 横井秀一氏

【対談】14:30～15:00

横井秀一氏 × 向井 譲氏（岐阜大学応用生物科学部教授）

【チラシ】https://www.gifu-u.ac.jp/news/event/forum_50.pdf

【申込】事前申し込み不要、無料

【お問い合わせ】岐阜大学環境対策室 058-293-2177

.....

☆愛知県農業総合試験場公開デー2017

【開催日時】平成29年11月3日（金）9:00～14:00

【会場】愛知県農業総合試験場（長久手市岩作三ヶ峯1-1）

【内容】・講演会 ・展示・相談 ・研究施設見学（事前申込優先）
 ・コラボ企画 ・試食アンケート ・生産物・加工品等の販売

【案内チラシ】http://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/173983_339773_misc.pdf

.....

☆第19回全国山羊サミット in ぎふ

【開催日時】1日目：平成29年11月4日（土）9時～17時 交流会18時～20時
2日目：11月5日（日）10時～12時

【開催場所】1日目：シティホテル美濃加茂（岐阜県美濃加茂市太田町2565-1）

2日目：日本昭和村（岐阜県美濃加茂市山之上町2292番地1）

【開催案内】 <http://japangoat.web.fc2.com/news.html#summit2017>

【内容】 1日目

基調講演

- I. 美濃加茂市における山羊さん除草およびその関連事業の取組み（仮題）
有限会社 フルージック代表 渡辺祥二 氏
- II. 学校における動物ふれあい教育の意義と取組み（仮題）
元美濃加茂市立蜂屋小学校校長 井戸千恵子 氏

一般発表

- I. 山羊の飼育管理と衛生、II. 山羊による地域活性、
- III. 一般講演（募集演題）

2日目

- I. 人工授精・周産期管理、II. 防疫管理、
- III. 山羊によるキャラメルづくり（要予約）

【主催】 「第19回全国山羊サミット in ぎふ」実行委員会及び全国山羊ネットワーク

【参加費】 2000円/人（講演要旨代、会場費等）、交流会 5000円/人
昼食 700円/人、 定員300人 交流会は定員200人

【申込み】 申込期限 9月30日、上記の「開催案内」を開き、申込書に記入し下記の
「申込先 お問い合わせ先」にお送り下さい。

【申込先 お問い合わせ先】

全国山羊サミット in ぎふ実行委員会事務局 八代田真人

E-mail: yagi.summit@gmail.com

携帯電話：090-5101-9591 FAX：058-293-2867

.....
☆「三重大学と地元企業」との連携セミナー

～新しい視点からビジネスニーズを見つけよう！～

【開催日時】平成29年11月7日（火）13：30～17：00

【開催場所】四日市商工会議所 1階会議所ホール（四日市市諏訪町2-5）

【主催】三重銀行、三重銀総研、三重大学、四日市商工会議所

【内容】研究分野別「大学発ビジネスの種（シーズ）紹介」

具体的な内容はこちらのURLを参照して下さい。：

http://www.mie-u.ac.jp/topics/events/item/20170928_rev1kai.pdf

【参加】参加費無料、定員50名

参加申込書は、上記のURLにあります。

.....
☆東海地域マッチングフォーラム

「CO2で収量アップ！」

～CO2施用を核とした施設環境制御による野菜花き生産の活性化～

【開催日時】平成29年11月27日（月） 13:00～17:10

【開催場所】名古屋国際センターホール（別棟）

（名古屋市中村区那古野一丁目 47-1）

<http://www.nic-nagoya.or.jp/japanese/nicnews/>

【開催詳細・内容】<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/10/077238.html>

【対象】農業者、農業者団体、普及・行政・試験研究機関関係者、民間企業等

【主催】農林水産省大臣官房政策課技術政策室、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門

【参加】参加費無料

【お問合せ】中央農業研究センター産学連携室 電話 029-838-8979

メール CARC-Comm@ml.affrc.go.jp

.....

☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」

【開催日時】平成29年5月～6月及び9月～12月（計7回）

【開催場所】名古屋大学、豊田森林組合、ポートメッセなごや

【都市の木質化講座2017ポスター】

http://www.nagoya-u.ac.jp/international/upload_images/toshinokisituka2017.pdf

【主催】名古屋大学大学院生命農学研究科・都市の木質化プロジェクト

【対象者】林・林産・建築業関係者、行政関係者、一般市民（大学生以上）

【定員】30～40名

【参加費】テキスト代 1000円（7回分）、受講料無料（保険料・オプションは別途）

【申込み方法】上記のポスター（pdf）に書かれています。

【都市の木質化プロジェクト】<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~biomeng/toshimoku/>

【問合わせ先】名古屋大学大学院生命農学研究科 生物材料工学研究室

TEL：052-789-4146・4148 FAX：052-789-4147

E-mail: woodismnagoya@gmail.com

お申し込みは、E-mailにてお送り下さい。

◆3◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。
<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成 29 年度競争的研究資金等について

☆平成 30 年度科学研究費助成事業 — 科研費 — (文部科学省)

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/boshu/1394559.htm

分野等：新学術領域研究、特別研究促進費

公募期間：平成 29 年 9 月 1 日～11 月 8 日

☆平成 30 年度科学研究費助成事業 — 科研費 — ((独) 日本学術振興会)

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/03_keikaku/download.html

分野等：特別推進研究、基盤研究、挑戦的研究、若手研究

公募期間：平成 29 年 9 月 1 日～11 月 8 日

☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージⅢ：NexTEP-タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成 29 年 3 月 31 日～11 月 30 日 (第 2 回締切)

30 年 3 月 30 日 (第 3 回締切)

☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成 29 年度未来創造ベンチャータイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う、未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成 29 年 3 月 31 日～11 月 30 日 (第 2 回締切)

30 年 3 月 30 日 (第 3 回締切)

☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成 29 年度一般タイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果

の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日（第2回締切）

30年3月30日（第3回締切）

.....
☆平成29年度戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）（総務省）

若手ICT研究者等育成型研究開発（若手研究者枠・中小企業枠）」

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/scope/

分野等：ICT分野の研究者として次世代を担う若手人材を育成することや中小企業の斬新な技術を発掘するために、若手研究者又は中小企業の研究者が提案する研究開発課題。

公募期間：平成29年7月5日～10月13日（若手研究者枠）

.....
☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!)（総務省）

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- ① いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- ② G空間高度利活用基盤技術（Tokyo 3D Mapping）
- ③ 以心伝心ICTサービス基盤
- ④ フレンドリーICTサービス技術
- ⑤ 社会インフラ維持管理サービス技術
- ⑥ レジリエント向上ICTサービス技術
- ⑦ 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合をはかるなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～30年3月30日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆園芸関係

○カキ「富有」におけるカキノヘタムシガ第一世代幼虫の防除適期は満開10日後である

カキノヘタムシガは、カキの芽や果実を加害する害虫であり、年2回発生します。特に、果実を直接加害するので被害が大きくなります。岐阜県等による研究で、カキ（品種：富有）における本害虫の第一世代幼虫に対する防除適期は、満開日の10日後となることが明らかとなりました。

農研機構HP：2016年果樹茶業部門(普及成果情報 園芸・茶)

http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/4th_laboratory/nifts/2016/16_032.html

○ニホンナシ発芽不良障害の発生は窒素施用時期の変更により軽減できる

暖地のニホンナシにおいては、秋冬期が高温となる年に発芽不良障害が生じることがあります。これは、窒素施用が耐凍性の獲得を阻害するために凍害が発生することが主因であるとされています。従って、窒素施用時期を慣行の秋冬期から翌年春に変更することにより、発芽不良障害の発生率を軽減できます。

農研機構HP：2016年果樹茶業部門（普及成果情報 気象・環境）

http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/4th_laboratory/nifts/2016/16_047.html

☆畜産関係

○太陽光発電を活用した放牧家畜の飲水の自動供給システム

休耕地など電源がない場所で放牧を行う場合に、既存の太陽光電気牧柵システムに揚水ポンプシステムを組み合わせた新たな家畜飲水供給システムが開発されました。

農研機構HP：2016年

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nilgs/056040.html

農研機構HP：耕作放棄地放牧等における 省力的家畜飲水供給システム

導入マニュアル (Ver. 1.1)

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/055278.html

.....

編集後記

「記録は破られるためにある。そのために努力し続けるのが、人間というものだ。」（英国実業家リチャード・ブランソン）という名言を思い起こさせたのが、陸上男子100m走での桐生選手による10秒の壁突破でした。最近の日本の男子短距離界は10秒を切り

そんな選手が数名いて人材が豊富であるので、誰が先陣を切るのかと楽しみでもあり期待もされていまして、日本人初となるこの快挙を喜びたいと思います。目の前の厳然たる記録の壁を打ち破ろうと、日夜、血のにじむような努力をしていることに思いを馳せ、人間として教えられるものがあります。

最近の動向として、衆議院が9月28日に解散され、10月10日に衆議院選挙の公示、10月22日が投票日となります。日本の将来を選択する重要な選挙であり、民主主義社会において民主主義を機能させていくためには、国民一人一人がよく考えて投票所に行くことが必要不可欠です。棄権せずに投票に行きましょう。

ところで、最近読んだ本に、波多野卓司著『ひとり会社』の起こし方、育て方（ぱる出版、2017年8月発刊）があります。著者は、エンジニアとして十数年企業に勤め、30代半ばに経営支援の仕事がしたいという思いが募って脱サラし、その後、専門外の勉強もして、努力の末に経営コンサルタントとして成功しました。このような経験を生かして起業支援を行っています。俗に、100の「起業」のうち成功するのは1つと言われていますが、著者の主宰する起業塾では、塾生の半数が起業し、その9割が経営を継続しており、1400人を成功に導いたとのこと。本書では、(1)起業したいという思いを醸成する時期、(2)トライアンドエラーの時期、(3)事業立ち上げ時期、(4)事業継続時期に分けて、どのような考えで進めていったら良いのかについて具体的に述べています。その中で、(1)スローに（少しずつ進む）、(2)スモールに（自分の持ち味を生かす）、(3)ローカルに（コツコツ続ける）、進めることが成功の秘訣であるとしています。

農業の成長産業化の一方で、中山間地域等の少子高齢化が進む地域で、雇用を確保し創っていくためには、本書に書かれたような考え方も取り入れて、ユニークな「ひとり会社」が、Uターン・Iターン人材、定年退職者等を含めて、多数生まれてくることを期待し、地域としてもそれらを育てていくことが重要ではないかと思われました。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

＝－＝

東海生研 ～ メールマガジン 第155号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

＝－＝

**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成29年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
 - ☆平成29年度第3回セミナー (11月21日)
 - ☆その他の行事等
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
 - ☆東海地域マッチングフォーラム (11月27日)
 - ☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」(5月～12月、計7回)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
 - ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
 - ☆平成29年度セルロースナノファイバー活用製品の性能評価事業委託業務 (2次公募) (環境省)
 - ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ3 : NexTEP-Aタイプ (JST)
 - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)
 - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
 - ☆平成29年度戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE)
 - ☆若手ICT研究者等育成型研究開発 (若手研究者枠・中小企業枠) (総務省)
 - ☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
 - ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

<p>◆1◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業</p>
--

☆平成29年度第3回セミナー
 ～ICT、IoT等を活用したスマート農業の展開と課題～

【開催日時】平成29年11月21日(火) 13:30～17:00

【開催場所】AP名古屋. 名駅 名駅 IMAIビル7階 L会議室 (会場変更後)
(名古屋市中村区名駅4丁目10-25)

アクセス：JR名古屋駅桜通口から 下車5分

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/1663>

1. あいさつ：本セミナーの概要説明 13:30～13:40

2. 講演

1) 衛星・ドローンによるリモートセンシングのスマート農業への活用(13:40～14:25)

農研機構 農業環境変動研究センター 井上 吉雄 氏

休憩 (14:25～14:35)

2) 施設栽培における環境制御関係

(1) 環境モニタリングシステム「あぐりログ」による産地内情報共有

(14:35～15:05)

愛知県農業総合試験場園芸研究部次世代施設野菜研究室 番 喜宏 氏

(2) プロファームを活用した環境モニタリングと環境制御 (15:05～15:35)

株式会社デンソー 新事業推進部 木股 光善 氏

(3) 生産管理における「食・農クラウドAkisai」の活用 (15:35～16:05)

富士通株式会社 西日本営業本部東海支社 公共営業部 上田 太郎 氏

休憩 (16:05～16:15)

3) 畦畔除草ロボットの開発 (16:15～17:00)

農研機構 西日本農業研究センター 傾斜地園芸研究領域 中元 陽一 氏

3. 情報交流会 (17:15～18:30)

参加費 2,500円 場所 7階 K会議室

【主催】特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

【参加申込等】講演会は参加費無料。

.....

☆その他の行事等

○競争的資金説明会： 1月中旬

○情報誌「バイオテック東海」： 12月発行予定

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆東海地域マッチングフォーラム

「CO2で収量アップ！」

～CO2施用を核とした施設環境制御による野菜花き生産の活性化～

【開催日時】平成29年11月27日(月) 13:00～17:10

【開催場所】名古屋国際センターホール(別棟)

(名古屋市中村区那古野一丁目47-1)

<http://www.nic-nagoya.or.jp/japanese/nicnews/>

【開催詳細・内容】 <http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/10/077238.html>

【対象】 農業者、農業者団体、普及・行政・試験研究機関関係者、民間企業等

【主催】 農林水産省大臣官房政策課技術政策室、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門

【参加】 参加費無料

【お問合せ】 中央農業研究センター産学連携室 電話 029-838-8979

メール CARC-Comm@m1.affrc.go.jp

.....

☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」

【開催日時】 平成29年5月～6月及び9月～12月（計7回）

【開催場所】 名古屋大学、豊田森林組合、ポートメッセなごや

【都市の木質化講座2017ポスター】

http://www.nagoya-u.ac.jp/international/upload_images/toshinokisituka2017.pdf

【主催】 名古屋大学大学院生命農学研究科・都市の木質化プロジェクト

【対象者】 林・林産・建築業関係者、行政関係者、一般市民（大学生以上）

【定員】 30～40名

【参加費】 テキスト代 1000円（7回分）、受講料無料（保険料・オプションは別途）

【申込み方法】 上記のポスター（pdf）に書かれています。

【都市の木質化プロジェクト】 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~biomeng/toshimoku/>

【問合わせ先】 名古屋大学大学院生命農学研究科 生物材料工学研究室

TEL：052-789-4146・4148 FAX：052-789-4147

E-mail: woodismnagoya@gmail.com

お申し込みは、E-mailにてお送り下さい。

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成29年度競争的研究資金等について

☆平成29年度セルロースナノファイバー活用製品の性能評価事業委託事業（2次公募）

http://www.env.go.jp/earth/ondanka/biz_local/29_a44-2/index.html

分野等：セルロースナノファイバー（CNF）活用材料で部品等を試作し、実機に搭載することで製品としての信頼性、CO2削減効果等の性能評価を実施するとともに、早期社会実装に向けた導入実証を行う。

公募期間：平成29年10月23日～11月24日

.....
☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP） ステージ3：NexTEP-タイプ（JST）

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日（第2回締切）

平成30年3月30日（第3回締切）

.....
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ（JST）

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日（第2回締切）

平成30年3月30日（第3回締切）

.....
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ（JST）

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日（第2回締切）

平成30年3月30日（第3回締切）

.....
☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム（I-Challenge!）（総務省）

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実

現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- (1) いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- (2) G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- (3) 以心伝心ICTサービス基盤
- (4) フレンドリーICTサービス技術
- (5) 社会インフラ維持管理サービス技術
- (6) レジリエント向上ICTサービス技術
- (7) 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～平成30年3月30日

.....

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆園芸関係(病害虫)

本成果は、農研機構野菜花き研究部門が代表機関となり実施した農食研究推進事業（平成28年度）で得られたものです（農林水産省「研究紹介2017」収録）。平成26年度頃から、埼玉県北部のネギやニンジンの産地でクロバネキノコバエ科の一種の幼虫による根や茎の食害が急増し、出荷不能となるような圃場も出ています。平成29年4月までの段階では、本害虫の分布域は埼玉県、群馬県に限られていますが、今後、拡大するものと見られ、東海地域でも今後発生する可能性がありますので、それらしい被害が発生しましたら、各県の病害虫防除所等に連絡するとともに、これまでに明らかにされた成果を用いて的確な防除を行う必要があります。本成果については、下記のウェブサイトの詳細が掲載されていますのでご参照下さい。

- ・「クロバネキノコバエの一種Bradysia sp. 防除のための手引き」

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/pub2016_or_later/files/Bradysia_sp_bo_ujo.pdf

☆薬用植物

本成果は、金沢大学が研究代表機関となり、農食研究推進事業（平成26～28年度）で得られたものです（農林水産省「研究紹介2017」収録）。近年、中国産生薬の価格が高騰するなどの問題があり、国内生産が求められています。このため、本研究では、(1)薬用植物4種類（トウキ、ジオウ、シヤクヤク、センキュウ）の栽培マニュアルの作成、(2)これら4種について中国産と識別するためのDNA識別法の確立、(3)非薬用部分の地上部を用いた商品開発（入浴剤および石けん）が行われました。栽培マニュアルについては、金沢大学の下記ホームページに今後掲載される予定とのことです（まだ未公開）。

・ <http://www.p.kanazawa-u.ac.jp/~yakusou/>

.....

編集後記

前号からの間に、東海生研主催のイベントが、10月17日に第2回セミナー、11月7～8日に「アグリビジネス創出フェア2017 in 東海」が開催されました。東海地域発の研究成果、全国の研究成果の発表・普及、情報収集・交流の場を提供させていただきました。東海地域の農林水産業・食品産業の振興と持続性向上、地域活性化への活用に向けた地道な活動を通して、生産者、加工業者等の着実な経営改善が図られ、イノベーションが起こることをを念じつつ進めております。活動内容の改善を図るためには、会員ほか皆様のご意見、ご要望にも真摯に伝えていく必要があると思っています。今後、農林水産業との結びつきを一層深めていくことも重要と考えております。

衆議院総選挙の投票が10月22日に超大型台風21号来襲の中で行われました。与党が小選挙区制により圧倒的な議席数を確保しました。一方、自民党は比例区では33%、有権者全体を含めた絶対得票率では小選挙区で25%、比例区では17%でした。イギリスの哲学者・経済学者のベンサムが「あらゆる政治社会における統治の正当な目的は、社会を構成するすべての個人の最大幸福、換言すれば、最大多数の最大幸福である。」と功利主義の立場から述べていますが、議席数と支持率の乖離も踏まえて、適切な運営がなされることが期待されます。

ところで、最近読んだ本に、増田寛也・富山和彦著「地方消滅 創生戦略論」（中公新書、2015年8月発刊）があります。著者は、本欄で前にご紹介しました（メルマガ2014年11月10日号）「地方消滅 東京一極集中が招く人口急減」を著し、少子高齢化、人口の東京等への集中により、地方の人口が減少し、全国896自治体が存続できなくなる可能性を発表しセンセーションを巻き起こしました。今回の「創生戦略論」では、「地域消滅」を無くし、東京への一極集中を無くすためには、若い人たちが東京ではなく地方に残ろうと思えるだけの仕事の間を作ることが必要であり、中規模以下の都市が持つ可能性は、一次産業にあり、一次産業を発展させるには、六次産業化しかない。畑作、畜産、林業などからモデルケースとなる例を出していく必要があるとしている。まずは、夫婦で500万円の収入があれば子育てしながら暮らすことができ、地方のローカル経済の復活、域内での

新陳代謝による生産性の向上が必要であるとしています。地方の一次産業は生産性改善の余地が大きく、地方の生産性の向上こそが、地方消滅を食い止めると同時に、日本全体の超長期的な持続性を高める一番の対策であるとも述べています。本書は、元総務大臣の増田氏と、地方のバス会社の経営を見事に立ち直らせた富田氏の対談として書かれていますが、地域の産業的基盤である一次産業とそこから生まれる食品加工・販売・サービスを活性化させることが基本であるとの認識を示しています。夫婦で500万円の所得が得られる様々な多様な経営（単一作目、複合経営、六次化、兼業等）、更には法人経営などのビジネスモデルを創出し、これを実践し、参入する人と法人を地道に、長期的に、手厚く育てていくことが、地方の持続性向上の王道であると筆者も改めて再確認した次第です。

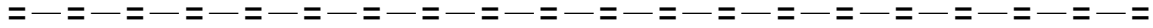
===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>



東海生研 ～ メールマガジン 第156号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会



**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成29年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
- ☆行事予定
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 12月研究会 (12月13日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆平成30年度「イノベーション創出強化研究推進事業」説明会 (12月27日)
- (農林水産技術会議事務局)
- ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
- ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ3 : NexTEP-Aタイプ (JST)
- ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)
- ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
- ☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

◆ 1 ◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
--

☆行事予定

- ・競争的研究資金説明会： 1月中旬
- ・情報誌「バイオテック東海」： 1月発行予定

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

?中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 12月研究会

【開催日時】平成29年 12月 13日(水) 14:00～17:00

【開催場所】名古屋市市民活動推進センター 研修室
名古屋市中区栄三丁目18番1号
ナディアパーク・国際デザインセンタービル 6階
(電話:052-228-8039)

【講演】

1・14:00～15:30分

「家庭用燃料電池 エネファームの概要とその動向」

東邦ガス株式会社 技術開発本部 技術研究所 家庭用技術 澤木大輔 氏

2・15:40～17:00

「燃やさずに有機物を減容しリサイクル。次世代の廃棄物減容装置“ERCM”」

株式会社 ASK商会 開発部 小林靖典 氏

【会費】会員 無料、会員以外1,000円(学生 500円)

【懇親会】講師を囲んでの懇親会を予定(自由参加) 会費 3,000円

◆3◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

☆平成30年度「イノベーション創出強化研究推進事業」 事業説明会

【開催日時】平成29年12月27日(水) 13:30～16:00

【開催場所】農林水産省本館7階講堂 (東京都千代田区霞が関1-2-1)

【主な内容】

- ・「イノベーション創出強化研究推進事業」の概要
- ・応募要件
- ・事務手続き
- ・スケジュール
- ・その他
- ・質疑応答

【農林水産技術会議事務局HP】<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/171205.html>

【参集範囲】農林漁業者、民間企業、大学、都道府県、国立研究開発法人等

【参加可能人数】250名

【参加申込方法】インターネット又はFAXにてお申込み下さい。

インターネットでのお申込み:

<https://www.contactus.maff.go.jp/affrc/form/system/171205.html>

【お問合せ先】上記の農林水産技術会議事務局のホームページをご覧ください。

.....

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。
<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成 29 年度競争的研究資金等について

☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ 3 : NexTEP-タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成 30 年 3 月 30 日 (第 3 回締切)

.....
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成 29 年度未来創造ベンチャータイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成 30 年 3 月 30 日 (第 3 回締切)

.....
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成 29 年度一般タイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成 30 年 3 月 30 日 (第 3 回締切)

.....
☆平成 30 年度河川砂防技術研究開発 (国土交通省)

<http://www.mlit.go.jp/river/gijutsu/kenkyu.html>

分野等：河川・水防災技術分野、砂防技術分野、海岸技術分野、地域課題分野、流域計画・流域管理課題分野

公募期間：平成 29 年 1 月 1 日～30 年 1 月 1 日

.....
☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!) (総務省)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- (1) いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- (2) G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- (3) 以心伝心ICTサービス基盤
- (4) フレンドリーICTサービス技術
- (5) 社会インフラ維持管理サービス技術
- (6) レジリエント向上ICTサービス技術
- (7) 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～平成30年3月30日

.....
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください (下記のURL)。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆園芸関係

○自家受粉が可能なニホンナシ新品種「なるみ」

ニホンナシの主要品種は、自家不和合性があるために、結実させるには、他の品種の花粉による人工受粉が必要です。しかし、開花期間が短いために、人工受粉期間は大変忙しく労力が必要となります。農研機構果樹研究所 (現在 果樹茶業研究部門) では、人工受粉を必要としない、中生の新品種「なるみ」を育成し、品種登録しました。「なるみ」の果実は「豊水」と比べて、果肉の柔らかさ、糖度がほぼ同程度とされています。苗木は販売されています。

農研機構ホームページ

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/fruit/060153.html

○コスト・環境負荷低減のための青果物のバルクコンテナ物流技術の開発

キャベツなどの流通で、新規バルクコンテナを用いて流通させた場合に、従来の段ボールの場合と比べて、包材コストを3割以上、物流に関わる二酸化炭素発生量を3～4割削減可能となります。この方式は、物流時の品質保持が可能な積載条件下での実用化が可能です。

農研機構ホームページ

<http://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/3010026944>

☆畜産関係

○ヤギによる雑草等の管理

ヤギは、摂食する植物の範囲がウシ、ヒツジよりも広く、人力や除草機で除草しにくい傾斜地（棚田、土手、その他の法面など）での除草に適しているとされています。特に、中山間地域では、高齢化、過疎化が進んでおり、危険の伴う傾斜地の除草作業を行う人員が得にくくなっていることからヤギ除草が注目されています。また、ヤギによる猿害軽減効果もあるとされています。

遊休棚田の山羊を使った土壌保全的雑草管理・利用（農林水産技術会議アグリサーチャー）

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/218982>

ヤギ放牧による雑灌木の除去効果（農林水産技術会議アグリサーチャー）

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/224718>

ヤギは牛の好まない草地雑草スイバを好食する（農林水産技術会議アグリサーチャー）

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/220579>

山羊（シバヤギ）の放牧でチカラシバを退治する（農林水産技術会議アグリサーチャー）

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/226798>

ヤギを利用した猿害軽減技術（農林水産技術会議アグリサーチャー）

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/220376>

.....

編集後記

師走に入り、何かと忙しく、また急に寒さが身に染みてきました。インフルエンザ・ワクチンの生産が間に合わず、予防接種もままなりません。風邪などひかぬようにお気を付け下さい。先月号からの間にあったこととしては、北朝鮮による大陸間弾道ミサイルの

発射実験が行われ、射程が米国に達する状況となり、緊迫感が増しています。また、トランプ大統領によるエルサレムをイスラエルの首都とし米国大使館を移すとの歴代米国大統領が避けてきたことを実施し、アラブ社会との対話を難しくして対立を激化させ、国際世論の反発を招いています。何事も「米国第一主義」の大統領が、北朝鮮が原爆投下可能なミサイルの完成前に奇襲攻撃をするのではないかと懸念されています。その場合に、日本や韓国に多数の中距離ミサイルが撃ち込まれ、社会経済に多大な損害が生じることが予測されます。核シェルターに補助金を付ける議論よりも、万が一にも戦争とならないように、我が国は絶対に戦争をしたくないということを明確に米国に伝えて欲しいものです。

ところで、最近読んだ本に、石井哲也著「ゲノム編集を問う～作物からヒトまで～」(岩波新書、2017年7月発行)があります。著者は、名古屋大学大学院を経て、現在は北海道大学安全衛生本部教授であり、生命倫理、特に医療と食のバイオテクノロジーと社会の関係を研究しています。ゲノムとは、ある生物にとって最低限必要な遺伝物質の一式、生物の設計図を意味します。ゲノム編集は、現在、第三世代と言われている「クリスパー・キャス9」と呼ばれる技法を用いて行われ、世界中の多くのバイオテクノロジー研究者がこの技法を用いて農学、医学分野等で研究を進めています。この技法の特徴は、狙ったDNA塩基配列のピンポイントを切断し、塩基の削除、追加、あるいはそこに遺伝子を挿入することが可能といった画期的なものです。従来の遺伝子組換えでは、導入する遺伝子がゲノムのどこに入るのかわからないというのと大きな違いです。従って、ゲノムの狙った部分の遺伝子について理論的に編集(改変)できます。

著者は、今後ゲノム編集によって作出される農作物やヒトの遺伝子治療などについて社会的議論が十分に行われ、社会的な同意を得つつ進められることの重要性を述べています。特に、農作物については、遺伝子組換え農作物が消費者に受け入れられていない状況を反省し、消費者にとってメリットがあるようなターゲット(形質)を選ぶこと、ゲノム編集によって生じる可能性のあるオフターゲット変異(ターゲットでない予期しない箇所の切断・改変)の有無・評価についても十分に行うことなど、慎重に進める必要があると主張しています。本書は、ゲノム編集技術を用いて農作物の育種研究を行う研究者にとって必読の書であるとともに、一般市民もゲノム編集についての理解を増すのに良い本であると思われます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

＝－＝

東海生研 ～ メールマガジン 第157号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

＝－＝

**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成29年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
- ☆平成30年度予算及び平成29年度補正予算に係る事業・公募説明会
- (1月19日)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 新春講演会 (1月25日)
- ☆農研機構野菜花き研究部門国際シンポジウム (2月13日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆農林水産省等のイベント情報
- ☆ゲノム編集を用いた育種の進展と今後の展望 (1月16日)
- 4. 競争的研究資金について
- ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ3 : NexTEP-Aタイプ
- (JST)
- ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ
- (JST)
- ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
- ☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
- ?民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

<p>◆ 1 ◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業</p>
--

☆農林水産技術会議事務局研究資金（平成30年度予算及び平成29年度補正予算）に係る事業・公募説明会

東海農政局とNPO法人東海地域生物系先端技術研究会は、民間企業、試験研究機関、大学等を対象として、農林水産技術会議事務局研究資金（平成30年度予算及び平成29年度補正予算）に係る事業・公募説明会を下記の通り開催いたします。

【開催日時】平成30年1月19日（金）13：30～16：30（13時 受付開始）

【開催場所】AP名古屋. 名駅 7階 会議室K

（名古屋市中村区名駅4丁目10-25 名駅IMA Iビル）

会場アクセス：

<https://www.tc-forum.co.jp/kansai-area/ap-nagoya/na-base/>（外部リンク）

【内容】

- （1）「イノベーション創出強化研究推進事業」の概要について
- （2）「生産性革命に向けた革新的技術開発事業」の概要について
- （3）「革新的技術開発・緊急展開事業（うち経営体強化プロジェクト）」の新規公募の概要について
- （4）「戦略的プロジェクト研究推進事業」の概要について
- （5）その他

説明終了後に、NPO法人東海地域生物系先端技術研究会による個別相談会を行います（16時30分～）。個別相談を希望される方は、その旨を別添の参加申込書に記載して下さい。

【主催】農林水産省東海農政局、NPO法人東海地域生物系先端技術研究会

【参加人員】定員60名

【お申込み】別添参加申込書に必要事項を記載し、平成30年1月16日（火）12時までに、FAX又は、メールにてNPO法人東海地域生物系先端技術研究会へお申し込み下さい。

申込用紙：下記の東海生研ホームページからダウンロードしてください。

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/1875>

お申し込み先：NPO法人東海地域生物系先端技術研究会（大石、道村）

TEL&FAX：052-789-4586 E-mail：bio-npo2@4.dion.ne.jp

【お問い合わせ先】東海農政局生産部生産技術環境課

担当者：長谷（ながたに）、畔柳（くろやなぎ）

電話：052-746-1313

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

?中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 30年新春講演会

【開催日時】平成30年1月25日（木）15時00分～17時

【開催場所】ナディアパーク・ビジネスセンタービル 8階

レストラン 宇宙 そら 講演会場

（名古屋市中区栄三丁目18番1号 TEL 052-241-8760）

【新春基調講演】

「こだわりを世界から『商品政策に関するこれからのキーワード』」

アルファフードスタッフ株式会社 代表取締役 浅井章博氏

【新年懇親会】 17時30分～19時30分

ナディアパーク・ビジネスセンタービル 8階

レストラン 宙・そら パーティールーム

【会費】 会員 無料、会員外 1,000円

【懇親会費】 会員 一人 無料、会員二人目から5,000円

会員外 5,000円

.....

☆農研機構野菜花き研究部門国際シンポジウム

～日本のイチゴ生産は何処をめざすか～

【開催日時】 平成30年2月13日（火） 13時～17時50分

【開催場所】 ウィンクあいち 大会議室（902会議室）

（名古屋市中村区名駅4丁目4-38 TEL：052-571-6131）

【主催】 農研機構 野菜花き研究部門

【講演】

Session 1 日本のイチゴ生産の現状と課題

1) 品種開発（一挙成り、四季成り品種の開発動向） 野菜花き研究部門 野口裕司氏

2) 栽培技術（栽培上、経営上の課題を報告） 静岡県農林技術研究所 井狩 徹氏

3) 高設栽培（高設栽培システム、環境制御） 岡山大学 吉田裕一氏

4) 海外との連携（品種開発、技術開発） 農林水産省 郡 健次氏

Session 2 東アジアのイチゴ生産の現状

1) 韓国イチゴ生産の現状と課題 江陵原州大学 Yeoung Young Rog氏

2) 中国イチゴ生産の現状と課題 瀋陽農業大学 Lei Jiajun氏

Session 3 総合討論

【詳細】 <http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/12/078999.html>

【案内ポスター】 http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/poster_ichigo_symo2018.pdf

【ポスター募集】 ポスターセッションがあり、ポスター募集が行われています。

【参加】 参加費は無料。参加予定人数 150名。

参加申し込みは、タイトルを「イチゴシンポジウム参加申し込み」として、氏名、所属を明記の上、naroberry@ml.affrc.go.jp 宛にメールにてお申し込みください。

申込締切り日：1月31日

【お問い合わせ先】 農研機構 野菜花き研究部門

実行委員長 野口裕司 E-mail: ynogu@affrc.go.jp

事務局 岩崎泰永 TEL: 029-838-8681 E-mail: iwasakiy@affrc.go.jp

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

☆ 講演会「ゲノム編集を用いた育種の進展と今後の展望」

【開催日時】平成30年1月16日（木）13：30～16：30

【開催場所】共同通信会館5階 A+B会議室（東京都港区虎ノ門2-2-5）

【主催】次世代育種技術研究開発プラットフォーム

【講演内容】

- 1) 「SIP新たな育種体系の確立」におけるゲノム編集作物等の研究開発の状況
筑波大学 江面 浩 教授)
- 2) ゲノム編集技術に関する最新知財動向 平木国際特許事務所 塚原優子 弁理士
- 3) ゲノム編集など新たな育種技術をめぐる規制動向 名古屋大学 立川雅司 教授

【開催案内】<https://www.jataff.jp/news/seminar/index.html#kouen180116>

【参加】参加費無料。定員80名が満席となり次第、受付終了。お申込みは、上記の開催案内から「申し込みフォーム」に入り、必要事項を記し、お送り下さい。

◆ 4 ◆ 平成29年度競争的研究資金等について

☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP） ステージ3：NexTEP-タイプ（JST）

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日（第3回締切）

☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ（JST）

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究

成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日（第3回締切）

.....
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日（第3回締切）

.....
☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!) (総務省)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- (1) いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- (2) G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- (3) 以心伝心ICTサービス基盤
- (4) フレンドリーICTサービス技術
- (5) 社会インフラ維持管理サービス技術
- (6) レジリエント向上ICTサービス技術
- (7) 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～平成30年3月30日

.....
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆食品関係

○グルテン不使用の100%米粉パンの製造技術の開発

農研機構食品研究部門は広島大学と共同で、市販のオーブンを使用して、補助材料（グルテンや増粘剤）なしで、基本原料（米粉、水、ドライイースト、砂糖、食塩、油脂（バター等））だけで良く膨らむ100%米粉パンを製造する技術を開発しました。米の消費拡大とともに、小麦アレルギーやセリアック病（グルテンに対する異常反応に誘発される自己免疫疾患）に悩む方への朗報となります。

この製法では特別の機器を必要とせず、原料にデンプンの損傷度が低い米粉を使用し、発酵・焼成工程を工夫することで、十分な膨らみを持ったパンを作製することができます。

・農研機構HP：プレスリリース

「グルテン不使用の100%米粉パンの製造技術を開発しました」

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nfri-neo/073238.html

☆病害虫関係

○天敵増殖資材による施設園芸の総合的害虫防除体系の確立・実証

本研究成果は、農研機構中央農業研究センターを代表機関とし、11の研究機関が参画した共同研究により生み出されたものです。本研究により、従来为天敵放飼資材（パック製剤、ボトル製剤）よりも、天敵放出性が良く、不適環境下における天敵保護効果が優れたバンカーシートが開発され、製品化されました。また、バンカーシートの最適利用条件が明らかにされるとともに、薬剤防除に依存して天敵利用が進んでいない施設栽培野菜（育苗期～定植後のキュウリ、ナス、イチゴ）、登録薬剤が少なく天敵利用も進んでいないサヤインゲン、薬剤散布回数が多い花き（ダリア）において、バンカーシートを用いた総合的害虫防除体系が構築され、利用マニュアルが作成されました。そして、本バンカーシートに導入するミヤコカブリダニ剤（施設栽培の野菜、花き等のハダニ防除用）とスワルスキーカブリダニ剤（施設栽培の野菜等のアザミウマ類、コナジラミ類の防除用）が農薬登録されました。

・農研機構HP：バンカーシート利用マニュアル

http://www.naro.affrc.go.jp/project/research_activities/files/bankahyoshi.pdf

・農研機構HP：研究活動報告詳細

施設野菜の微小害虫防除に役立つ「バンカーシート利用マニュアル」

http://www.naro.affrc.go.jp/project/research_activities/laboratory/narc/077789.html

・農林水産省：「研究紹介2017」収録

.....

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

昨年中は、NPO法人東海生研の諸活動にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。本年も東海地域における産学官連携支援に邁進し、地域のネットワーク形成、競争的資金獲得、農林水産業・食品産業における研究成果の実用化・事業化に向け、鋭意、活動を進めて参りますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

平成30年の国内的な課題は少子化対策であると言われてはいますが、人口動態統計（厚生労働省）を見ても2006年以降、人口減少幅が拡大し続け、自然減少率も加速度を増しながら大きくなっています。団塊の世代とその後の世代の定年退職が急速に進む中で、求人倍率が上がり、人手の確保が難しくなっています。こうした中で、農林水産業・食品産業においても、人口減少対策が大きな課題となっているのではないかと考えられます。

ところで、最近読んだ本に、川上徹也著『コト消費』の嘘（角川新書、2017年11月発行）があります。2014年9月号の本メールマガジンで、著者の別冊「物を売るバカ」をご紹介しましたが、この中では、モノが溢れる時代にあっては、モノが売れなくなっているのに、「物語の持つ力をビジネスに導入」し、商品、商品以外のこと、及びこれにかかわる人の思いなどをストーリーとして発信することによって、消費者に共感してもらい、リピーターになってもらうことの重要性について述べていました。今回、著者が述べているのは、多くの企業がモノ以外のコト（例えば、イベント、観光等々）を売ることの重要性に気付き、大型ショッピングモール等でも、客寄せの各種イベントを開催するなど、様々な工夫を行っています。著者は全国各地のショッピングモール、スーパー、商店などを訪ねて分析した結果、コトがモノの販売増加に繋がっていない事例を数多く見て、コトをモノの販売増加に確実に繋げていくべきことを述べ、その手法について、幾つか提案しています。実際に調べて書いているので、販売促進を考えておられる方には、いろいろ参考になると考えられます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研 ～ メールマガジン 第158号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

**** 《もくじ》 ****

- 1. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆農研機構・野菜花き研究部門国際シンポジウム (2月13日)
- ☆中部大学生命健康科学研究所ヘルスサイエンスヒルズシンポジウム(2月16日)
- ☆岐阜大学大学院連合獣医学研究科市民公開講座 (3月23日)
- 2. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆農林水産業イノベーションシンポジウム (3月20日)
- ☆農林水産省等のイベント情報
- 3. 競争的研究資金について
- ☆平成30年度イノベーション創出強化研究推進事業
- (農研機構・生研支援センター)
- ☆平成29年度補正予算 生産性革命に向けた革新的技術開発事業
- (農研機構・生研支援センター)
- ☆平成29年度補正予算 革新的技術開発・緊急展開事業
- (うち経営体強化プロジェクト) (農研機構・生研支援センター)
- ☆平成30年度戦略的プロジェクト研究推進事業 (農林水産技術会議事務局)
- ☆平成30年度安全な農林水産物安定供給のためのレギュラトリーサイエンス
- 研究委託事業 (農林水産省 (消費安全局))
- ☆平成30年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省 (農村振興局))
- ?平成30年度木材需要の創出・輸出力強化対策
- (「地域内エコシステム」構築事業(木材のマテリアル利用技術開発事業))
- (林野庁)
- ☆平成30年度ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業
- (水産庁)
- ☆平成30年度省力化技術導入実証事業 (水産庁)
- ☆平成30年度小型漁船安全対策技術推進事業 (水産庁)
- ☆平成30年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩からみた漁場生産力回復
- 手法の開発 (水産庁)
- ?平成30年度漁場環境改善推進事業のうち
- 赤潮及び栄養塩からみた漁場生産力回復手法の開発 (水産庁)
- ☆平成30年度二枚貝資源緊急増殖対策事業 (水産庁)

- ☆平成30年度CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業 (環境省)
- ☆平成30年度セルロースナノファイバー活用製品の性能評価事業委託業務 (環境省)
- ☆平成30年度エネルギー・環境新技術先導プログラム (NEDO)
- ☆平成30年度戦略的省エネルギー技術革新プログラム (NEDO)
- ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ3 :
NexTEP-Aタイプ (JST)
- ☆産学共同実用化開発事業
NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)
- ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
- ☆平成30年度大学発新産業創出プログラム
(START) プログラム支援型 (JST)
- ☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
- ?民間の競争的研究資金
- 4. 新技術情報について

◆1◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

?農研機構野菜花き研究部門国際シンポジウム
～日本のイチゴ生産は何処をめざすか～

【開催日時】平成30年2月13日(火) 13時～17時50分

【開催場所】ウインクあいち 大会議室(902会議室)

(名古屋市中村区名駅4丁目4-38 TEL:052-571-6131)

【主催】農研機構 野菜花き研究部門

【講演】

Session 1 日本のイチゴ生産の現状と課題

- 1) 品種開発(一挙成り、四季成り品種の開発動向) 野菜花き研究部門 野口裕司氏
- 2) 栽培技術(栽培上、経営上の課題を報告) 静岡県農林技術研究所 井狩徹氏
- 3) 高設栽培(高設栽培システム、環境制御) 岡山大学 吉田裕一氏
- 4) 海外との連携(品種開発、技術開発) 農林水産省 郡健次氏

Session 2 東アジアのイチゴ生産の現状

- 1) 韓国イチゴ生産の現状と課題 江陵原州大学 Yeoung Young Rog氏
- 2) 中国イチゴ生産の現状と課題 瀋陽農業大学 Lei Jiajun氏

Session 3 総合討論

【詳細】<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/12/078999.html>

【案内ポスター】http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/poster_ichigo_symo2018.pdf

【ポスター募集】ポスターセッションがあり、ポスター募集が行われています。

【参加】参加費は無料。参加予定人数 150名。

参加申し込みは、タイトルを「イチゴシンポジウム参加申し込み」として、氏名、所属を明記の上、naroberry@ml.affrc.go.jp宛にメールにてお申し込みください。

申込締切り日：1月31日

【お問い合わせ先】農研機構 野菜花き研究部門

実行委員長 野口裕司 E-mail: ynogu@affrc.go.jp

事務局 岩崎泰永 TEL: 029-838-8681 E-mail: iwasakiy@affrc.go.jp

.....

☆中部大学生命健康科学研究所ヘルスサイエンスヒルズシンポジウム

～栄養・食品機能と老化、疾患予防～

【開催日時】平成30年2月16日（金）13時40分～17時

【開催場所】中部大学春日井キャンパス 不言実行館アクティブホール

【内容】

・「可食性ポリマーによる疾病予防の可能性」 生命健康科学部准教授 川本善之 氏

・特別講演1

「臓器老化モデルマウスを用いた食品の機能性評価」

千葉大学医学研究院・先進加齢医学 特任准教授 清水孝彦 氏

・「エボジアミンによる脂肪細胞の機能制御と抗肥満、メタボ予防」

生命健康科学部教授 山下 均 氏

・特別講演2

「腸内細菌と免疫老化研究」 国立長寿医療研究センター研究所副所長 丸山光生 氏

【開催案内】https://www3.chubu.ac.jp/research_life_health/news/23218/

【案内リーフレット】 https://www3.chubu.ac.jp/documents/research_life_health/news/23218/23218_d942102517050289498ce2e3394cdead.pdf

【参加】聴講無料、予約不要

【連絡先】生命健康科学部事務室：0568-51-5097（ダイヤルイン）

.....

☆岐阜大学大学院連合獣医学研究科 市民公開講座「ミツバチと病気」

【開催日時】平成30年3月23日（金）14：00～17：00

【開催場所】岐阜大学サテライトキャンパス（岐阜スカイウィング37東棟4階）

【主催】岐阜大学大学院連合獣医学研究科

【内容】

・ミツバチの病菌の伝播 岐阜大学応用生物科学部教授 土田浩治 氏

・アメリカ腐蛆病とヨーロッパ腐蛆病

埼玉県農林畜産部安全課主査・連合獣医学研究科修了生 荒井理恵 氏

・蜂蜜と幼児ボツリヌス症

東京農業大学教授・元連合獣医学研究科客員教授・

元厚生労働省国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長 五十君静信 氏

【案内リーフレット】 <https://www1.gifu-u.ac.jp/~ugvphdhp/news2017/kouen20180323.html>

【参加】参加費無料、事前登録不要

◆ 2 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

☆農林水産業イノベーションシンポジウム

(農林水産省)

【開催日時】平成30年3月20日(火) 13時分30分～16時45分

【開催場所】農林水産省本館7階講堂(東京都千代田区霞が関1-2-1)

【講演】

(1)挨拶

(2)特別講演:「ゲノム編集で世界の胃袋を満たす」

京都大学大学院農学研究科助教 木下政人 氏

(3)「ここまで進んだ現場での最新技術」 4人の講師による講演

(4)政府における科学技術振興の動き

農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官 菱沼義久 氏

(5)農林水産技術会議委員と講演者との意見交換

【参加申込】申込締切 3月13日(火) 17時。参加申込要領は下記の「詳細」参照

【詳細】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/1943>

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 3 ◆ 平成29～30年度競争的研究資金等について

☆平成30年度イノベーション創出強化研究推進事業

(農研機構・生物系特定産業技術研究支援センター)

<http://www.naro.affrc.go.jp/brain/innovation/koubo/h29.html>

分野等:従来の常識を覆す革新的な技術・商品・サービスを生み出していくイノベ

ーションの創出に向け、「知」の集積と活用による研究開発を重点的に推進する提案公募型の研究開発事業「イノベーション創出強化研究推進事業」を推進することとし、公募により研究を委託する。

公募期間：平成30年1月16日～2月16日

.....

☆平成29年度補正予算 生産性革命に向けた革新的技術開発事業

(農研機構・生物系特定産業技術研究支援センター)

<http://www.naro.affrc.go.jp/brain/productivity/koubo/h29.html>

分野等：我が国農林水産業の競争力強化を図るため、担い手の不足や高齢化など生産現場が直面する課題に対応しつつ、生産性を飛躍的に向上する技術が求められている。このため、「生産性革命・集中投資期間」である2020年までの3年間において、現場ニーズに即した明確な開発目標の下、生産者・企業・大学・研究機関等がチームを組んで、人工知能（AI）やドローン等の最先端技術を活用し、省力化・低コスト化等の生産性革命に資する実証型の研究開発について、公募を通じて委託する。

公募期間：平成30年1月16日～2月16日

.....

☆平成29年度補正予算 革新的技術開発・緊急展開事業(うち経営体強化プロジェクト)

(農研機構・生物系特定産業技術研究支援センター)

http://www.naro.affrc.go.jp/brain/h27kakushin/keiei/koubo_h29/index.html

分野等：平成29年11月にTPP11交渉が大筋合意したこと、また、平成29年12月に日EU・EPAが交渉妥結したことに伴い、新たな国際環境の下で、我が国農林水産業・食品産業が持続的に維持・発展するためには、農林水産業の現場で求められている農林水産物・食品の輸出や外国産との差別化、現場の更なる生産性の向上等を可能にし、生産者の所得を向上させる技術を生み出し、確実に農林水産業等の現場に実装することで、生産者の技術力を向上させることが重要である。このため、国が定めた開発目標に向かって、研究勢力を結集し、生産者の参画の下、速やかな社会実装を目指す実証研究について、公募を通じて委託する。

公募期間：平成30年1月16日～2月16日

.....

☆平成30年度戦略的プロジェクト研究推進事業（農林水産省農林水産技術会議事務局）

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/180201.html>

分野等：

1. 現場ニーズ対応型研究
 - 1) 青果用かんしょの省力機械移植栽培体系の確立
 - 2) 茶葉の低温保管システムの開発と作期拡大を可能とする新品種の育成
 - 3) ドローンやほ場設置型気象データセンサー等センシング技術を活用した栽培

管理効率化・安定生産技術の開発

- 4) 総合的な悪臭低減、臭気拡散防止技術の開発
- 5) 成長に優れた苗木を活用した施業モデルの開発
- 6) クロマグロ養殖の人工種苗への転換促進のための早期採卵・人工種苗育成技術や低環境負荷養殖技術の開発
- 7) 有害化学物質・微生物の動態解明によるリスク管理技術の開発
- 8) 家畜の伝染病の国内侵入と野生動物由来リスクの管理技術の開発
- 9) 国際連携による農業分野における温室効果ガス削減技術の開発
- 10) ドローン等を活用した農地・作物情報の広域収集・可視化及び利活用技術の開発

2. 基礎的・先導的研究

- 11) AIを活用した食品における効率的な生産流通に向けた研究開発
- 12) 民間事業者等の種苗開発を支える「スマート育種システム」の開発
- 13) 海外植物遺伝資源の民間等への提供促進

公募期間：平成30年2月1日～3月22日

.....

☆平成30年度安全な農林水産物安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究委託事業
(農林水産省 (消費・安全局))

<http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/gijyutu/180202.html>

分野等：

1. 食品安全に関する課題
 - ・食品中のメチルフラン類縁体の分析法の開発
 - ・燻製に使用する木材の水分含量等が食品中の多環芳香族炭化水素類濃度に及ぼす影響の検証
 - ・海水中のノロウイルス指標微生物の分析法の開発
2. 動物衛生に関する課題
 - ・ヨーネ病の感度・特異度の高い遺伝子検査手法の確立
 - ・新たな輸入畜産物の消毒薬剤及び消毒方法の開発

公募期間：平成30年2月2日～3月9日

.....

☆平成30年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省 (農村振興局))

http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/180126_1.html

分野等：

1. 農地の大区画化・汎用化に資する技術
2. 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保全管理に資する技術
3. 土地改良施設の耐震強化等に資する技術
4. 小水力発電等の農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進に資

する技術

5. 農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術

公募期間：平成30年1月26日～3月30日

☆平成30年度木材需要の創出・輸出力強化対策

(「地域内エコシステム」構築事業(木材のマテリアル利用技術開発事業))(林野庁)

http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/30koubo_1/30mhk0128.html

分野等：

1. 新素材製造・利用技術開発
2. 改質リグニンの実用化に向けた事業性評価
3. 竹のマテリアル利用に向けた効率的な竹材生産技術の開発

公募期間：平成30年2月2日～3月1日

☆平成30年度ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業 (水産庁)

http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/170130_unagi.html

分野等：これまでの実証事業で得た技術開発の成果を踏まえ、?仔魚の生残率の向上、?再現性の向上、?省力化・省コスト化等の実証試験に取り組み、ウナギ種苗を大量生産する際に必要な知見を得る。

公募期間：平成30年1月30日～2月28日

☆平成30年度省力化技術導入実証事業 (水産庁)

http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/180202_se24.html

分野等：水産業の省力化に有効な設備等(複数の機器・装置で構成されるシステム又は関連機器・装置を含む)を導入し、その効果を確認する実証試験を行う。

公募期間：平成30年2月2日～23日

☆平成30年度小型漁船安全対策技術推進事業 (水産庁)

http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/180202_se25.html

分野等：小型漁船を対象として、水産業の安全性向上に有効な設備等(複数の機器・装置で構成される安全性向上のシステム又は関連機器・装置を含む)を導入し、その効果を確認する実証試験を行う。

公募期間：平成30年2月2日～23日

☆平成30年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩からみた漁場生産力回復手法の開発 (水産庁)

http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/180202_se30.html

分野等：ノリ等の海藻養殖が行われる冬季には、ケイ藻赤潮等により栄養塩が不足

し、ノリやワカメ等の色落ち被害が発生することから、ノリ等の海藻養殖場の海域において、適正な栄養塩供給手法の開発などを支援する。

公募期間：平成30年2月2日～23日

.....
☆平成30年度漁場環境改善推進事業のうち赤潮及び貧酸素水塊の広域自動モニタリング技術の開発」 (水産庁)

http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/180202_se31.html

分野等：赤潮・貧酸素水塊の発生状況の適切な把握と予察のため、水温、塩分、クロロフィル、濁度、溶存酸素などを広く観測できる連続観測装置の開発を行うとともに、広域の水質データを効率的に収集・公表するシステムの開発を支援する。

公募期間：平成30年2月2日～23日

.....
☆平成30年度二枚貝資源緊急増殖対策事業 (水産庁)

http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/180202_se35.html

分野等：二枚貝資源を増大させる仕組みとして、アサリ等について新たに開発された垂下式養殖の技術等を用いて、増殖を目的とする場所に、天然で発生する幼生の量を上回る多量の幼生を発生させたり、稚貝を定着をさせること、さらに漁港の静穏水域のスペースを活用すること等により、効果的・効率的な増殖手法の実証化の取組を行う。

公募期間：平成30年2月2日～23日

.....
☆平成30年度CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業 (環境省)

http://www.env.go.jp/earth/ondanka/biz_local/30_a33/index.html

分野等：

1. 交通低炭素化技術開発分野
2. 建築物等低炭素化技術開発分野
3. 再生可能エネルギー低炭素化技術開発分野
4. バイオマス・循環資源低炭素化技術開発分野
5. 社会システム革新低炭素化技術開発分野

公募期間：平成30年1月11日～2月9日

.....
☆平成30年度セルロースナノファイバー活用製品の性能評価事業委託業務 (環境省)

http://www.env.go.jp/earth/ondanka/biz_local/30_a37/index.html

分野等：セルロースナノファイバー（CNF）活用材料で部品等を試作し、実機に搭載することで製品としての信頼性、CO2削減効果等の性能評価を実施するとともに、早期社会実装に向けた導入実証を行う。

公募期間：平成30年2月1日～3月1日

.....
☆平成30年度エネルギー・環境新技術先導プログラム (NEDO)

http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100161.html

分野等：

1. エネルギー変換・貯蔵システム領域
2. 革新生産プロセス領域
3. 次世代革新材料領域
4. 先進機械システム・電源システム領域
5. 熱利用・プロセスシミュレーション・計測機器領域

公募期間：平成30年2月2日～3月5日

.....
☆平成30年度戦略的省エネルギー技術革新プログラム (NEDO)

http://www.nedo.go.jp/koubo/DA2_100222.html

分野等：現行の「省エネルギー技術戦略」に掲げる「重要技術」を中心に、高い省エネルギー効果が見込まれる技術開発を対象として助成する。

公募期間：平成30年2月5日～3月13日

.....
☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ3：NexTEP-タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日 (第3回締切)

.....
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日 (第3回締切)

.....
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日 (第3回締切)

.....
☆平成30年度 大学発新産業創出プログラム (START) プロジェクト支援型 (JST)

<http://www.jst.go.jp/start/boshu/h30/index.html>

分野等：大学等にて、事業プロモーターのマネジメントのもと、市場や出口を見据えて事業化をめざした研究開発プロジェクトをJSTが支援する。

公募期間：平成30年1月16日～3月14日

(第1次申請 (平成30年度第1サイクル))

.....
☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!) (総務省)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- (1) いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- (2) G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- (3) 以心伝心ICTサービス基盤
- (4) フレンドリーICTサービス技術
- (5) 社会インフラ維持管理サービス技術
- (6) レジリエント向上ICTサービス技術
- (7) 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～平成30年3月30日

.....
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください (下記のURL)。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 4 ◆ 新技術情報について

☆園芸関係

○作業精度が高く高効率な軟弱野菜調製機を開発

～ハウレンソウの調製作業の省力化に期待！！～

農研機構は、株式会社クボタ、株式会社斎藤農機製作所と共同で、ハウレンソウを対象とした高能率軟弱野菜調製機を開発しました。現行機では4名作業が前提ですが、開発機では、2名作業でも連続した調製作業が可能となり、作業能率も現行機と比較して最大約1.5倍となります。本開発機により、調製作業の省力化が期待されます。

・農林水産技術会議事務局 2017年農業技術十大ニュース

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/171220-8.pdf>

○青切りタマネギの新省力収穫・調製体系を開発
～フレコン利用で人力による運搬が不要に！～

香川県農業試験場は、香川県中讃農業改良普及センター、株式会社ニシザワ、株式会社和田オートマチックスと共同で、青切りタマネギを省力的に収穫・調製する機械化体系を開発しました。本技術を用いることで、収穫から調製に至る労力を手作業の半分程度に削減可能で、これにより経営規模拡大が期待されます。

・農林水産技術会議事務局：2017年農業技術10大ニュース

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/171220-6.pdf>

.....

編集後記

寒気の厳しい2月に入りましたが、9日には韓国の平昌（ピョンチャン）で冬季五輪の開会式が行われ、韓国と北朝鮮との合同チーム結成が結成され、統一旗の下で競技するというオリンピックならではの光景が出現しました。韓国政府の冬季オリンピックを成功させたい、甚大な被害が生じる武力衝突を避けたいとの思いが伝わってきます。競技においては、日本選手のスピードスケート、スキー、フィギアスケート等での活躍が期待されます。一方、羽生選手の怪我からの回復具合が気になります。

ところで、最近読んだ本に、河合雅司著「未来の年表」（講談社現代新書、2017年6月発行）があります。去る2014年11月号の本メールマガジンで、増田寛也編著「地方消滅～東京一極集中が招く人口急減～」(中公新書、2014年発刊)をご紹介しましたが、2040年時点での人口減による地方自治体の消滅予測が出され、社会的に大きな衝撃を与えました。一方、「未来の年表」では、2016年から2065年以降までの更に長期を見通し、この期間の節目となる年を21挙げて、その時々には日本社会で何が起きているかを予測しています。例えば、2023年には「企業の人件費がピークを迎え、経営を苦しめる」、翌2024年には「3人に1人が65歳以上の「超・高齢者大国」へ」、2042年には「高齢者人口が約4000万人とピークに」達し、著者は「2042年問題」と呼び日本社会の大ピンチとして問題提起しています。この頃には、勤労世代が大きく減り、低年金、無年金の高齢者が巷にあふれています。2050年には世界の人口が97億3千万人となり、日本が世界的な食料争奪戦に巻き込まれていると予測しています。2065年の日本の人口は約8千8百万人で、それ以降急減し、100年後には約5千60万人、200年後には約1380万人となり、「外国人が無

人となった国土を占拠」していると予測しています。著者は、次世代のために今取り組むべきととして、10の処方箋も提案しています。

人口推計学では、人口動態予測はかなり長期でも大きくはずれることはないと言われています。しかし、人口減による問題は「ゆでガエルの法則」のように、目に見える変化が急に起こるということではないので、抜本的な少子化対策が結果的に長期間遅れてしまいがちで、現に、長らく出生率が低下したままです。目先のことも重要ですが、将来予測を重視した取組みを、特に、政治家、行政官、企業経営者の方々に心がけていただきたいと思います。本書は既に36万部売れたそうですが、更に多くの人に読んでいただき、本気の少子高齢化対策、子育て支援、これから家庭を築く若者の雇用の安定を重視する社会にしていく上で、参考にしていただければと思う次第です。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 0 5 2-7 8 9-4 5 8 6

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

=====

東海生研 ～ メールマガジン 第159号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

=====

**** 《もくじ》 ****

- 1. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
 - ☆岐阜大学大学院連合獣医学研究科市民公開講座 (3月23日)
 - ☆三重大学生物資源学部 平成29年度第2回環境農林水産フォーラム (3月23日)
 - ☆三重大学伊勢志摩サテライト 第1回シンポジウム (3月25日)
 - ☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 見学会 (4月19日)
- 2. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
 - ☆農林水産業イノベーションシンポジウム (3月20日)
 - ☆農林水産省等のイベント情報
- 3. 競争的研究資金について
 - ☆平成30年度戦略的プロジェクト研究推進事業 (農林水産技術会議事務局)
 - ☆平成30年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省 (農村振興局))
 - ☆平成30年度放射性物質測定調査委託事業 (農林水産省：技術会議事務局)
 - ☆平成30年度放射能調査研究委託事業のうち『農林生産環境中における放射性核種の濃度変動の要因と動態の解明』(農林水産省：技術会議事務局)
 - ☆平成30年度水産防疫対策委託事業 (水産動物疾病の診断・予防・蔓延防止に係る技術開発等) (農林水産省：消費・安全局)
 - ☆平成30年度宇宙航空科学技術推進委託費 (文部科学省)
 - ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ3：
 - NexTEP-A タイプ (JST)
 - ☆産学共同実用化開発事業
 - NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)
 - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
 - ☆平成30年度大学発新産業創出プログラム
 - (START) プログラム支援型 (JST)
 - ☆平成29年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
 - ☆民間の競争的研究資金
- 4. 新技術情報について

◆ 1 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆岐阜大学大学院連合獣医学研究科 市民公開講座「ミツバチと病気」

【開催日時】平成30年3月23日（金）14：00～17：00

【開催場所】岐阜大学サテライトキャンパス（岐阜スカイウイング37東棟4階）

【主催】岐阜大学大学院連合獣医学研究科

【内容】

- ・ミツバチの病菌の伝播 岐阜大学応用生物科学部教授 土田浩治 氏
- ・アメリカ腐蛆病とヨーロッパ腐蛆病
埼玉県農林畜産部安全課主査・連合獣医学研究科修了生 荒井理恵 氏
- ・蜂蜜と幼児ボツリヌス症
東京農業大学教授・元連合獣医学研究科客員教授・
元厚生労働省国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長 五十君静信 氏

【案内リーフレット】 <https://www1.gifu-u.ac.jp/~ugvphdhp/news2017/kouen20180323.html>

【参加】参加費無料、事前登録不要

☆平成29年度第2回環境農林水産フォーラム （三重大学生物資源学研究科）
～生物資源学部創設30周年を迎えて～

【開催日時】平成30年3月23日（金）13：30～16：00（受付13時～）

【開催場所】三重大学 環境・情報科学館 3階 PBL 演習室

【主催】三重大学大学院生物資源学研究科・教育研究推進センター

【プログラム】

13：30 ご挨拶と学部・研究科紹介 生物資源学研究科長／梅川 逸人 氏
シンポジウム開始 司会 社会連携推進室長／田丸 浩 氏

13：50 「わたしの履歴書」
三重県企業庁／大学第30回農学科農業経営学コース／山神 秀次 氏

14：20 「低温一筋」
ABE 技術士事務所／県立大第5回水産製造学科／阿部万寿雄 氏
(休憩)

15：00 「海とともに生きて」
三重大学／県立大第19回水産増殖学科／前川 行幸 氏

15：30 「ポスター展示（学科紹介など）」

15：45 全体討論（将来展望など）

16：00 終了の挨拶 地域連携推進室長／酒井 俊典 氏

【実施要領】平成29年度第2回環境農林水産フォーラム

【対象】関連の企業・団体、一般の方

【参加申込み】上記実施要領にある参加申込書に必要事項を記入し、ファックスまたはメールにて、3月16日（金）までお願いいたします。

FAX：059-231-9634

E-mail：件名に「フォーラムの申込」とご記入下さい。

renkei@bio.mie-u.ac.jp

【お問合せ】 三重大学大学院生物資源学研究科チーム総務担当（羽津本）

TEL：059-231-9502 FAX：059-231-9634 E-mail：renkei@bio.mie-u.ac.jp

☆三重大学伊勢志摩サテライト 第1回シンポジウム

【開催日時】 平成30年3月25日（日）13：30～17：00

【開催場所】 海の博物館（鳥羽市浦村町大吉1731-68）

【対象】 三重大学の教育研究活動にご興味のある方

【開催内容】

◎三重大学の活動紹介

・「海女さんはすごい！—海女研究の魅力と可能性—」

人文学部 教授・塚本 明 氏

・「伊勢志摩の地域創生と海洋生物資源研究の果たすべき役割」

生物資源学研究科 教授・吉松 隆夫 氏

・「小学校における郷土教育の実践」

教育学部 教授・荻原 彰 氏

・「伊勢志摩国立公園と景観計画—景観まちづくりと地域再生—」

工学研究科 准教授・浅野 聡 氏

・「地域人材の育成を通じた地域創生への取り組み 南伊勢町の事例」

地域イノベーション学研究科 教授・西村 訓弘 氏

◎意見交換：伊勢志摩サテライトに要望すること

【チラシ】 <http://www.mie-u.ac.jp/topics/events/item/adaf441bd938fdd15b56c40d8655f860.pdf>

【参加費】 無料

【申込方法】 申込書に必要事項をご記入の上、FAX（059-231-5722）又はE-mailにて
申込書の内容を info@crc.mie-u.ac.jp までお送りください。

申込みの締切りは3月20日（火）

【お問い合わせ先】 国立大学法人三重大学地域イノベーション推進機構地域戦略センター

TEL：059-231-9763 FAX：059-231-5722 E-mail：info@crc.mie-u.ac.jp

☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 ～豊橋市バイオガス発電見学会～

【見学先】 豊橋市上下水道局：

中島処理場・豊橋市バイオマス資源利活用施設整備・運営事業

【開催日時】 平成30年4月19日（木）14：00～16：30

【集合場所】 JR 東海道本線豊橋駅改札出口 13時 40分に出発

（アクセス：改札集合後、東口1階タクシー乗場から～約20分）

【講演】 14：00～15：00

「小規模普及型バイオガス発電システムの開発と今後の展開」

豊橋技術科学大学 環境・生命工学系 特任准教授 熱田 洋一 氏

【見学】 15:10～16:30

[1] バイオマス利活用センター [2] 中島処理場水処理

【参加】 定員 30名 会員優先。 申込締切 3月22日(木)

定員があれば会員外も募集

参加費 無料

但し、豊橋駅からの交通費(タクシー往復など)は、各自折半で負担。

【懇親会】 17:20 三三九(札木/居酒屋) 予定。 参加費 3,000円(予定)

(愛知県豊橋市呉服町75番地 電話:0532-53-0339)

定員 とりあえず20名

4月12日(木)以降の懇親会追加、キャンセルはできません。

◆2◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

☆農林水産業イノベーションシンポジウム

(農林水産省)

【開催日時】 平成30年3月20日(火) 13時30分～16時45分

【開催場所】 農林水産省本館7階講堂(東京都千代田区霞が関1-2-1)

【講演】

(1) 挨拶

(2) 特別講演:「ゲノム編集で世界の胃袋を満たす」

京都大学大学院農学研究科助教 木下政人 氏

(3) 「ここまで進んだ現場での最新技術」

・「ドラえもんの世界が農業にやってくる」

慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科助教 野崎 貴裕 氏

・「森林(もり)と共に。革新的林業機械で支える林業生産」

イワフジ工業株式会社開発担当取締役 川崎 知資 氏

・「ロボット×ICTで切り拓く未来の水田農業」

上士別IT農業研究会会長、水留農場代表 水留 良一 氏

・「地域を守る!先端技術と地域の力を合わせた鳥獣害対策」

兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授 山端 直人 氏

(4) 政府における科学技術振興の動き

農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官 菱沼義久 氏

(5) 農林水産技術会議委員と講演者との意見交換

【参加申込】 申込締切 3月13日(火) 17時。参加申込要領は下記の「詳細」参照

【詳細】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/1943>

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 3 ◆ 平成29～30年度競争的研究資金等について

☆平成30年度戦略的プロジェクト研究推進事業 (農林水産省：技術会議事務局)

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/180201.html>

分野等：

1. 現場ニーズ対応型研究
 - 1) 青果用かんしょの省力機械移植栽培体系の確立
 - 2) 茶葉の低温保管システムの開発と作期拡大を可能とする新品種の育成
 - 3) ドローンやほ場設置型気象データセンサー等センシング技術を活用した栽培管理効率化・安定生産技術の開発
 - 4) 総合的な悪臭低減、臭気拡散防止技術の開発
 - 5) 成長に優れた苗木を活用した施業モデルの開発
 - 6) クロマグロ養殖の人工種苗への転換促進のための早期採卵・人工種苗育成技術や低環境負荷養殖技術の開発
 - 7) 有害化学物質・微生物の動態解明によるリスク管理技術の開発
 - 8) 家畜の伝染病の国内侵入と野生動物由来リスクの管理技術の開発
 - 9) 国際連携による農業分野における温室効果ガス削減技術の開発
 - 10) ドローン等を活用した農地・作物情報の広域収集・可視化及び利活用技術の開発
2. 基礎的・先導的研究
 - 11) AIを活用した食品における効率的な生産流通に向けた研究開発
 - 12) 民間事業者等の種苗開発を支える「スマート育種システム」の開発
 - 13) 海外植物遺伝資源の民間等への提供促進

公募期間：平成30年2月1日～3月22日

☆平成30年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省：農村振興局)

http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/180126_1.html

分野等：

1. 農地の大区画化・汎用化に資する技術
2. 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保全管理に資する技術
3. 土地改良施設の耐震強化等に資する技術
4. 小水力発電等の農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進に資する技術

5. 農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術

公募期間：平成30年1月26日～3月30日

.....
☆平成30年度放射性物質測定調査委託事業 (農林水産省：技術会議事務局)

http://www.maff.go.jp/j/supply/itaku/kenkyu_kaihatu/180223_1.html

分野等：福島県及びその周辺における農畜産物及び土壌の放射能汚染レベルの動向把握

公募期間：平成30年2月23日～4月6日

.....
☆平成30年度放射能調査研究委託事業のうち「農林生産環境中における放射性核種の濃度変動の要因と動態の解明」 (農林水産省：技術会議事務局)

http://www.maff.go.jp/j/supply/itaku/kenkyu_kaihatu/180223_2.html

分野等：農林生産環境中における放射性核種の濃度変動の要因と動態の解明

公募期間：平成30年2月23日～4月6日

.....
☆平成30年度水産防疫対策委託事業 (水産動物疾病の診断・予防・蔓延防止に係る技術開発等) (農林水産省：消費・安全局)

http://www.maff.go.jp/supply/itaku/kenkyu_kaihatu/180307_2.html

分野等：

1. 水産動物疾病等緊急対策
2. 水産防疫資材の開発促進のための基礎的な知見の収集
3. 水産動物疾病検査法開発
4. 養殖衛生管理に関する調査・研究

公募期間：平成30年3月7日～4月11日

.....
☆平成30年度宇宙航空科学技術推進委託費 (文部科学省)

http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1401208.htm

分野等：宇宙利用技術創出プログラム (衛星から得られたデータ等の宇宙科学技術を活用し、異分野シーズとの融合による新たな宇宙利用技術に関する研究開発を行うことにより、環境、農業・漁業、防災、スポーツ、地理空間等の様々な分野における実用化につながる、新たな価値を提供する技術の創出を目指す) 等。

公募期間：平成30年2月16日～4月16日

.....
☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ3：NexTEP-タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日 (第3回締切)

.....
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日（第3回締切）

.....
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日（第3回締切）

.....
☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!) (総務省)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- (1) いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- (2) G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- (3) 以心伝心ICTサービス基盤
- (4) フレンドリーICTサービス技術
- (5) 社会インフラ維持管理サービス技術
- (6) レジリエント向上ICTサービス技術
- (7) 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～平成30年3月30日

.....
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 4 ◆ 新技術情報について

☆水田作関係

○ ICT による水田の自動給排水栓を開発 ―スマホでらくらく・かしこく水管理―

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下「農研機構」という。）は、水田の水管理をスマートフォンや PC でモニタリングしながら遠隔操作したり、自動で給水と排水を制御できる国内初のシステムを開発しました。水管理労力の大幅な削減により、大規模農家の更なる規模拡大や余剰労力を活かした六次産業化への取組に貢献し、所得向上が期待されます。

・農林水産省十大ニュース：

「ICT による水田の自動給排水栓を開発 ―スマホでらくらく・かしこく水管理―」

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/171220-2.pdf>

・農研機構 HP：

「田んぼの水管理を ICT で遠隔操作・自動制御」

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nire/076704.html

○自動運転田植機を開発 ―田植作業の大幅省力化に期待！！―

農研機構は、初心者でも熟練並みの田植え作業が可能な自動運転田植機を開発しました。独自開発の操舵システムにより、高速旋回と高精度直進作業を実現しました。農繁期に必要な人員を削減可能で、営農規模の拡大に寄与することが期待されます。

・農研機構 HP：（研究成果）自動運転田植機を開発

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/iam/075850.html

.....

編集後記

2 月の厳しかった寒さも峠を越し、梅の花が咲き、日中の日差しも暖かくなってきました。昨日、ナナホシテントウムシが陽だまりを歩き回っているのに出会いました。

平昌オリンピックが終わりましたが、日本選手団はこれまでの最多のメダルを取り、テレビ画面を通じて多くの感動を与えてくれました。3 月 9 日にはパラリンピックが開幕し、とても真似のできない素晴らしい競技に感動し、励まされます。

オリンピック・パラリンピックで繰り広げられる夢のような世界の一方、現実社会では、オリンピックを契機として、米朝首脳会議が開催されそうな状況となり、一触即発の状況からひとまず解放されそうです。今後、核の放棄と緊張緩和へと進むことを期待したいものです。

ところで、最近読んだ本に、牧野知弘著「2040 年 全ビジネスモデル消滅」（文春新書、

2016年12月発行)があります。著者は、ボストン・コンサルティンググループを経て、三井不動産に勤務し、現在は起業して、ホテルや不動産開発・運用アドバイザー等の仕事をしています。このような経歴から、米国発の異なるビジネスモデルに依拠する著名企業、「日本マクドナルド」と「東京ディズニーランド」の日本進出から現在までの運営、事業業績の分析をしています。「日本マクドナルド」は日本の高度成長期にあつては米国文化である牛肉ハンバーグを日本国民に「量的充足」させながら展開を図り業績を伸ばしてきました。しかし、バブルがはじけるや低価格路線に切り替え、店舗数の拡大、直営店方式からフランチャイズ方式への転換など、当面の収益を上げる形で凌いできたが、今やハンバーガーはコモディティー化(ありふれた商品化)してしまい、マクドナルド型ビジネスモデルは役割を終えたとしています。一方、「ディズニーランド」型ビジネスモデルは、ひたすら1か所に留まり、人々に夢を与え喜ばせるためのアトラクション等の質の向上・価値の創造に努め、バブル崩壊後も入園料を下げることなく、むしろ上げて質向上のための投資に向けてきました。著者は、このような質の創造で勝負するビジネスモデルによる成功を評価しています。著者の専門分野である不動産販売においても、大量のニュータウン等を供給してきた量的充足の時代は終わり、今は不動産購入者の多様な質的充足を求める動きに的確に対応することが必要となっているとしています。このようなことは様々な分野の業種でも言えることと思われまゝ。著者は、更に先を見据えて、少子高齢化と所得格差が一層拡大し、富裕層が一握りしかいなくなるような社会においては、「ディズニーランド」型ビジネスモデルは楽しむ人が減少し破綻すると喝破しています。本メールマガジンの先月号の「本の紹介」で2042年問題を取り上げましたが、本書では、その頃には「全ビジネスモデル」が成り立たなくなると述べています。

企業経営にとっては、20年後の企業存続の方法、生き延びる戦略の策定は、それ程先の問題ではないと思われまゝ。そういう意味で、本書は近未来の問題提起の一冊と言えらると思われまゝ。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>